

—1964, March—

LEBEN

第 6 号

鹿児島大学生物研究会

目 次

○ 分類学と生態学	初島 住彦	1
○ 霧島山御池付近産の天牛類	鳥 洪	3
○ 屋久島で採集した蛾類(1963年4月) ...	田中 洋・南野 稔	6
○ 生研合宿・蛾の記録	橋元 敏爾	7
○ 種子島1963年夏のトンボ資料	田中 章	8
○ シルビアンジミ探索会	肥後 昌幸	9
○ 高千穂峰南麓地域産の蝶類目録	吉川 正一	11
○ 1963年4月・屋久島の蝶類採集報告 ...	田中 洋・田中 章・南野 稔	26
○ 編集後記		46

分類学と生態学

Taxonomy and Ecology

初 島 住 彦

分類学即ち Taxonomy は動植物の分類序列の配列を研究する生物学の一部門である。Taxonomy と云ふ言葉はギリシャ語の〔序列の法律〕の意で同意義に用いられる。Classification なる言葉より 分類の原則について一層深く論及するものである。生物を分類する場合は出来るだけ変化の少ない特徴をつかまへてそれを基礎とすることが必要であつて変化の多い特徴を基にした分類は価値が少いのである。これに關聯して Carl von Nageli は1884年生物の有する形質 (Merkmale) に2様あることを唱へている。即ちその一つは環境に全く関係なくどんな所にもつて行つても変化しない形質即ち花を咲き実を結ぶが如き又は生殖器官 (雄蕊、雌蕊) の数の如きものでこれ等を体制形質 (Organisationsmerkmale) と言ふ。

反対に葉、茎の如く外界の影響で変化しやすい形質を適応形質 (Anpassungsmerkmale) と云ふ。以上の観点から見てリンネが植物分類の基礎を花の生殖器官に置いたことは卓見と云はなければならない。最近の植物分類学は広範なる植物学分野の知識を必要としているが特に植物生態学と遺伝学の知識を必要とする。植物を分類するに當つては上記の2様の形質に注意すべきであるが往々にして体制形質と適応形質を混同した分類を見ることがある。今これ等に關して2~3の例をあげて見たいと思ふ。

1. 植物の縮小現象。屋久島の山頂附近特に湿原に生へている植物が著しく小さくなり極端な場合には普通品の $\frac{1}{10}$ ~ $\frac{1}{20}$ にも達することがある。これに似た現象は屋久島程ではないが屋久島と略同一海拔高を有しやはり花崗岩からなる朝鮮の濟州島の山頂附近に見られる。これ等の縮小現象の原因はよく判らないが筆者は雨が多く腐植質はすぐ流去られる為^に起る土壌の貧栄養が主なる原因でその外土壌の酸度、強烈なる日光の直射等も関係があるかも知れないと考へている。同じコガネギクでも山頂附近の岩の隙間に生ずるものは普通品に近いがすぐ近くの湿原に生へているものは果実に毛が少い点と形が小さいことで独立種 *イツスンキンカ* として區別されている。然し之等は平地の正常な土壌条件の下で栽培して見る必要があるはしないかと考へている。屋久島高地に生へている屋久島特産のヤクシマオオバコヤコケスミレは筆者の所で数年間栽培しているが植へてから2~3年の間は原形を止めているが4~5年たった今日では兩者とも可成り葉が大きくなり段々普通のオオバコ及びツボスミレに接近して来て数種以上に分けることは

無理な様に思はれる程である。

2. 狭葉現象 山間の溪流の岸の岩の上等に生へている植物には普通品に比し葉が著しく狭くなった個体が見られる。これ等をよく観察して見ると一般に河岸に生へているもの程葉が狭く河岸から内陸に遠さかるにつれ段々広くなり最後には普通品と殆んど区別出来なくなる様な場合である。この現象は狭葉現象 (Stenophyllism) と称せられている。この現象は雨期に河が氾濫し河岸が数日間増水の為水につかる様な所に生へている植物に多く見られるもので特に熱帯多雨林地帯に見られる。我国でも梅雨並に五月雨の影響のある西南日本に同様の現象が見られる。この現象は流水中に生へている水生植物の葉が狭くなるのと同じ原理で説明出来ると思ふ。即ち春の増水期に軟い若葉が水中で水に引張られ永年の間毎年かゝることを繰返している内にかゝる環境に適応する様な型が出来たものと解釈してよいと思ふ。タニガワコングク、リュウキユウツワブキ、ヤクシマシヨウマ、コツゲ、ウチワダイモンジソウ、ヤシヤゼンマイ、トサシモツケ等はこの例であると思ふ。

3. 塩生化現象 これは海岸に生へている植物の葉が普通品に比し著しく厚くなり光沢を増したり葉脈が凹入したりする現象即ち Halophyten (塩生植物) 化することである。かゝる型のものには往々テリハ、アツバ、等の名前が冠せられ変種又は品種として区別されるものもある。これは塩分を含んだ風が海岸林に吹きつけそれが極端な場合には葉面に塩の結晶を生ずることさえある。かゝる塩分が雨で流され林地の土壤にしみ込むと土壤はアルカリ性となりそこに生へている植物は Halophyten 化するのである。内陸に入る程潮風の影響も減ずるからそこに生へている植物は段々普通品に近づいて来る。南九州に見られるマルバヘダカホウズキ、ハチジョウイノヨズチ等はこの好例である。

4. 鋸齒が粗くなる現象 屋久島にはヤクシマガクウツギ、ヤクシマサワアジサイの如く普通品に比し葉の鋸齒が粗くなった型がある。これらの現象は屋久島の湿度の高いことが原因となるべく蒸散作用を大ならしむる為への適応現象と考えられる。

以上の色々の現象はいずれも生育地の環境因子と関係あるもので生態学的、植物分類学的並に遺伝学的に興味ある問題で今後の研究にまつべきものと考へる。

【鹿児島大学農学部教授】

霧島山御池付近産の天牛類

—1963年7月、生研合宿採集報告—



嵐 洪


1964年7月12~14日、恒例となっている生研の合宿を開催できた。今回は1年生の参加が全く無く、2年以上の会員も本職の実習などの為参加できる者が少ないという悪条件が重なり、僅か3人で合宿を行わざるを得ないという事になってしまった。生物研究会というサークルの性格を考える時、年に1回しか行われぬ合宿に参加者が少ないという事は致命的であるように思われる。1964年度の合宿が成功する様、祈らずには居られない。

それで、参加者は、田中洋(医・専3年)、橋元絃爾(農・3年)、嵩洪(農・2年)の虫やる人であった訳であるが、この時の採集記録としては、田中洋・橋元絃爾両氏が既に「御池～霧島神宮のミドリシジミ類調査」(SATSUMA・12(3))(1963)を発表しておられ、また橋元絃爾氏は本誌別項に「御池附近の蛾」を発表して居られるので、ここにはその時の採集記録として天牛類の目録を作ってみた。採集記録の末尾に「伐木、歩行中」等記したのは採集個体の採集時の状態である。採集者をH・T, K・H, H・S, と略記したが、これは夫々、田中、橋元、嶋をさすものである。標本保管者と採集者が異なる場合は、保管者を()で示した。

なお、この合宿を行りにあたって、合宿の提供、その他いろいろの御面倒をみていただいた御池小学校の先生方には、深甚の敬意を表したい。

今度の採集地は、殆んど未開拓の部分であると思うが、今後この地を訪れられる方々の御参考までに、我々のとったコース、日時等を次に記しておく。

- VII・12 (7. 01) 西鹿児島駅  (9. 50) 高原駅、(9. 50) 高原駅前 → (10. 10) 抜川  (10. 28) 御池～休憩・採集～(10. 50) --> 昼食 (12. 00) --> (15. 45) 御池小学校。その後附近の採集。
- VII・13 (9. 00) 御池小 --> (10. 55) ~ 天牛採集 ~ (11. 05) --> (12. 30) 森林帯入口(高千穂峰3合目附近)・昼食 --> (13. 40) 折返す --> (14. 45) ~ 天牛採集 ~ (16. 00) ---> (16. 25) 御池小。
- VII・14 (10. 30) 御池小 --> (15. 30) 荒蕪 --> (17. 00) 霧島神宮 --> (19. 00頃) 鹿児島市天文館。

( 汽車で行ったところ、→バスで行ったところ、→トラックに便乗、-->歩行。)

<記録>

1. ウスパカミキリ

御池小学校

VII・13

10X,

K・H

(死体)

2. コバネカミキリ

鹿児島大学生物研究会誌LEBEN才6号： 1964年3月

御池小～高千穂3合目	VII・13	1 ex.	H・T (H・S)	(歩行中)
" " " "	" "	1 ex.	H・S	(伐木)
3. オオヨスジハナカミキリ				
御池小～高千穂3合目	VII・13	1 ex.	K・H (H・S)	(伐木)
" " " "	" "	3 exs.	H・S	()
4. ヨスジハナカミキリ				
御池小～荒藁	VII・14	1 ex.	K・H	(叩網)
5. トラフホソバネカミキリ				
御池小～高千穂3合目	VII・13	1 ex.	K・H	(伐木)
6. トビイロカミキリ				
御池小～高千穂3合目	VII・13	1 ex.	H・S	(伐木)
7. トゲヒゲトビイロカミキリ				
御池小学校	VII・13	1 ex.	K・H	(灯下)
8. ウスイロトラカミキリ				
御池小～高千穂3合目	VII・13	4 exs.	H・T (H・S)	(伐木)
" " " "	" "	4 exs.	K・H(内3H・S)	(伐木)
" " " "	" "	9 exs.	H・S	(伐木)
9. ニイジマトラカミキリ				
御池小～高千穂3合目	VII・13	6 exs.	H・T (H・S)	(伐木)
" " " "	" "	15 exs.	K・H (H・S)	()
" " " "	" "	11 exs.	H・S	()
10. キュシュウチビトラカミキリ				
御池小～高千穂3合目	VII・13	1 ex.	H・T (H・S)	(伐木)
" " " "	" "	1 ex.	K・H	(伐木)
" " " "	" "	1 ex.	H・S	()
11. フタオビミドリトラカミキリ<霧島山新記録>				
御池小～高千穂3合目	VII・13	2 exs.	H・T (H・S)	(伐木)
" " " "	VII "	3 exs.	K・H(内1.H・S)	(伐木)
" " " "	" "	1 ex.	H・S	(伐木)
12. セダコブヤハズカミキリ				
御池小～高千穂3合目	VII・13	1 ex.	H・T	(歩行中)
" " " "	" "	1 ex.	H・S	()
13. ヒメヒゲナガカミキリ				
御池小～高千穂3合目	VII・13	1 ex.	H・T (H・S)	(不明)
" " " "	" "	1 ex.	K・H (H・S)	()

14 . ホシベニカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	(1ex.) H.S	(目撃)
15 . ゴマダラカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	(1ex.) K.H	(目撃)
16 . シロスジカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	(1ex.) H.S	(飛行中目撃)
17 . ゴマフカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	1ex. H.T	(伐木)
18 . カタジロゴマフカミキリ	御池小学校	Ⅵ . 13	1ex. K.H	(燈火)
19 . ナガゴマフカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	4exs. H.T(H.S)	(伐木)
◇ ～ ◇		Ⅵ . 13	11exs. H.S	(伐木)
◇ ～ ◇		Ⅵ . 13	2exs. K.H	(伐木)
20 . ヒゲナガゴマフカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	1ex. H.T	(伐木)
◇ ～ ◇		Ⅵ . 13	2exs. K.H	(伐木)
◇ ～ ◇		Ⅵ . 13	1ex. H.S	(伐木)
21 . クワサビカミキリ	御池付近	Ⅵ . 12	1ex. H.T	(叩網)
22 . シロオビサビカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	1ex. K.H	(伐木)
23 . アトモンサビカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	1ex. H.T	(伐木)
24 . トゲバカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	1ex. K.H	(叩網)
25 . シロスジドウボソカミキリ	御池付近	Ⅵ . 12	1ex. K.H	(薬上に静止)
26 . リュウキウウルリボシカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	1♂1♀ H.T	(若薬上, 交尾中)
◇ ～ ◇		Ⅵ . 13	1ex. K.H	(飛行中)
27 . シラホシカミキリ	御池小～高千穂3合目	Ⅵ . 13	2exs. H.T(H.S)	(伐木)
◇ ～ ◇		Ⅵ . 13	7exs. K.H(H.S)	(伐木)
◇ ～ ◇		Ⅵ . 13	6exs. H.S	(伐木)

屋久島で採集した蛾類(1963年4月)

田 中 洋
南 野 稔

1963年4月 屋久島で蝶採集のかたわら蛾の採集をした。標本を井上寛先生(東京農業大学)にお送りして同定していただいたので報告する。標本はすべて井上先生に保管をお願いしてある。採取者は、田中 洋、南野 稔、田中 章の3人である。

ジャクガ科 : ① ヒメカギバアオジャク1♂ 湯泊(11日), ② クロスジアオナミジャク1♀ 湯泊(11日) 1♀ 安房(14日), 3 クスアオジャク1♂ 黒味川流池(9日) 4 ヨツモンマエジロアオジャク1♂ 湯泊(11日), 5 フタナミトビヒメジャク1♂ 湯泊(11日), ⑥ ナカジロナミジャク1♀ 安房(16日), 7 フトスジエダジャク1♂ 湯泊(11日), 8 ウスチャトビモンエダジャク1♀ 湯泊(11日), 9 ウラベニエダジャク1♀ 安房(16日 川陳採取), ⑩ ヒトスジマダラエダジャク1♀ 湯泊(11日) 1♂1♀ 中間~湯泊(11日) 1♂ 安房(16日), 11 ミスジツマキリエダジャク1♂ 安房~小杉谷(4日) 1♂ 安房~小杉谷(14日), ⑫ モンシロツマキリエダジャク1♀ 安房~小杉谷(14日)

フタオガ科 : 1 ハガタフタオ1♂ 湯泊(11日)

トガリバガ科 : 1 モントガリバ1♂ 安房公民館(14日)

ヒトリガ科 : 1 スジモンヒトリ5♂ 湯泊(11日), 2 モンシロモドキ1♀ 湯泊~平内(12日)

オオカギバガ科 : ① オオカギバ1♂ 湯泊(11日) 1♂ 中間~湯泊(11日) 1♂ 湯泊(12日)

トクガ科 : 1 ゴマフリドクガ1♂ 安房(7日)

ヤガ科 : 1 オオトモエ1♀ 中間~湯泊(11日)

メイガ科 : 1 モンキシロノメイガ1♀ 湯泊(11日), ② マエベニノメイガ1頭 栗生~大川(10日), ③ クロモンキノメイガ1♂ 湯泊(11日), 4 フタホシノメイガ1♂ 湯泊(12日), 5 シロモンノメイガ1♂ 湯泊(11日), ⑥ アヲノメイガ1♀ 湯泊(11日) 1♂ 安房(16日)

スガ科 : 1 コナガ5頭羽化 栗生(4月下旬).....イヌガラシより: 黒子浩氏同定

以上9科26種のうち番号を○でかこんだもの9種は屋久島未記録である。

同定と御教示を与えてくださった井上寛先生、黒子浩先生に深く感謝します。

(医学部専3年: 農学部2年)

鹿児島大学生物研究会会誌L E B E N 才6号: 1964年3月

生 研 合 宿 蛾 の 記 録

橋 元 紘 爾

この合宿については崑君により、紹介されているので私は何も書くことはない。蛾についても全然やった事のないグループであるから採集した標本についても何ら書くことはできないのは当然の事である。ただ記録の保存のために、記録のみを書くことにする。

尚、全部の蛾を同定して下さった竹村芳夫氏に深く感謝すると共に、この合宿の根拠地を借して下さった御池小学校の先生方に感謝する。

スズメガ科				13	
クチバスズメ	12	1ex.	クロフシロエダシヤク	13	1ex.
ウスコモンズズメ	12	1ex.	クロクモエダシヤク	12	1ex.
ヤガ科			アトフトオビエダシヤク	12	1ex.
カラスヨトウ	12	1ex.	リンゴツノエダシヤク	12	1ex.
ヨモギコヤガ	13	1ex.	御池小学校 ~ 高千穂3合目	橋元紘爾	
コガタノキシタバ	12	3exs.	ヨコモンエダシヤク	12	2exs.
オオトモエ	12	1ex.	そのうち1ex.は御池小学校~高千穂3合目		
キンスジアツバ	12	1ex.	田中 洋		
クロキシタバ	13	2exs.	ホシミスジエダシヤク	12	1ex.
ソトウスアツバ	12	1ex.	アミメオオシダシヤク	12	1ex.
モンキシタバ	12	1ex.	ウスモンヒメシヤク	12	1ex.
カレハガ科			イラガ科		
マツカレハ	12	4exs.	13	1ex.	タイワンイラガ
シヤクガ科				13	2exs.
ウスアオシヤク	12	2exs.	メイガ科		
フタモンクロナミシヤク	12	2exs.	ツトガ	13	2exs.
キマダナオオナミシヤク	12	1ex.	マツノオオマダラメイガ	13	1ex.
マエキオエダシヤク	12	1ex.	13	1ex.	シロイチモンジマダラメイガ
クロハグルマエダシヤク	12	6exs.		13	1ex.
	13	1ex.	ナカムラサキフトメイガ	12	1ex.
オオゴマダラエダシヤク	12	1ex.	御池小~高千穂3合目	橋元紘爾	
ウスオエダシヤク	12	1ex.	カカトビフトメイガ	12	1ex.
クロフオオシロエダシヤク	12	1ex.	そのうち1ex.は御池小学校~高千穂3合目		

。橋元紘爾。

ナカアカシマメイガ	12	2exs.
アカシマメイガ	12	1ex.
モンキクロメイガ	12	1ex.
	13	1ex.
マエキンタクロノメイガ	12	1ex.
クワノメイガ	12	1ex.
モンシロクロノメイガ	12	1ex.
フキノメイガ	12	1ex.

この採集地は高崎県北諸県郡西岳村御池小

採集者は特記してない限り田中洋、瀧洪、橋元
紘爾、の三者による協同作業による。12また
は13と書いたのは、1963年7月12日また
は13日のことである。採集法は、採集者の特
記してあるものは昼間に採集したもので、その
他は宿所の蛍光灯に集まって来たもの（窓は閉
じていたからガラスに止ったもの）である。
尚、種名の不明のものが数種あった。

〔農学部3年〕

種子島1963年夏のトンボ資料

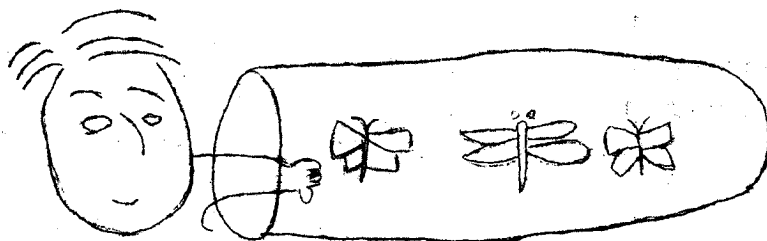
田 中 章

牧場実習で種子島の西之表市に行き少数のトンボを採集したのでその記録を記す。

(同定は朝比奈正二郎先生にお願いし標本も全部差し上げた。採集者は全て筆者である。)

1. コシボソヤンマ 1♂ 西之表市鹿大附属牧場 VII・16 (種子島で3頭目)
2. ショウジウトンボ 1♂ 西之表 VII・11, 1♀ 牧場 VII・17.
3. コノシメトンボ 1♂ 西之表 VII・11.
4. マユタテアカネ 1♂ 西之表 VII・11, 1♀ 牧場 VII・17.
5. ハグロトンボ 1♂1♀ 牧場 VII・11.

(農学部 農学科2年)



シルビアシジミ探索会

肥後昌幸

1963年10月13日、指宿市の宮ヶ浜一帯のシルビアシジミの調査会を行った。今まで宮ヶ浜までの記録はあったがそれ以北の記録はなかったので、生見まで発見出来たことは一応の成果であった。本報では①シルビアシジミ、②タイワンツバメシジミ、③タテハモドキの3種についてだけ発表する。参加者は田中洋(H. T)、船本秀男(H. A)、肥後昌幸(M. H) 南野 稔(S. N)の四人である。

宮ヶ浜の海岸(a)、宮ヶ浜～今和泉(b)、今和泉～小牧(c)、小牧～生見(d)

①シルビアシジミ

宮ヶ浜から生見まで採ることができたが、北上するに従って少なくなる。ミヤコグサは生見以北には見られないようであった。開花期で葉裏には卵も見られた。

(a) 2♂1♀(M. H)、1♂1♀(H. T)、1♂(H. A)、1♀(S. N)

ヤハズソウで卵のカラ1個採取(M. A)、ミヤコグサに卵のカラはあるが少ない。

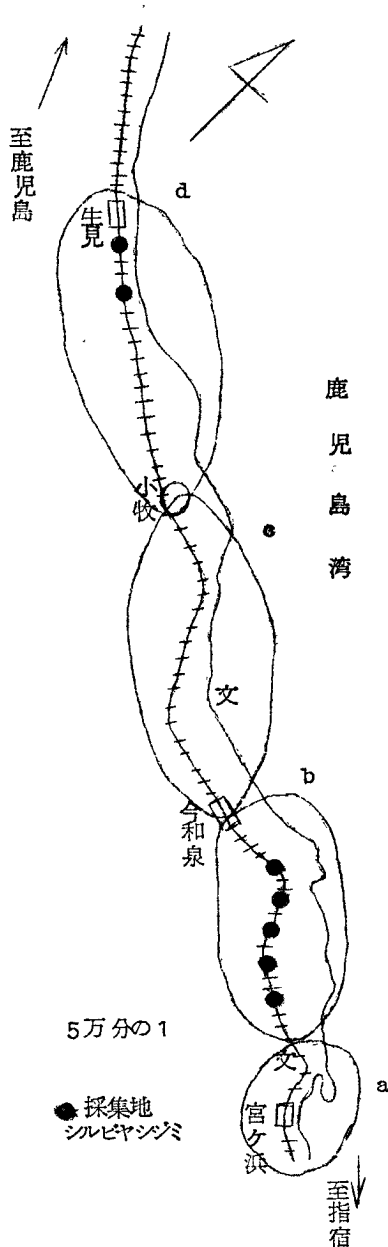
(b) 2♂2♀(M. H)、1♀(H. A)

ミヤコグサが多く(鉄道線路)卵が比較的多かった。ヤハズソウの葉裏に生卵が1個ついていた(H. T)。

(c) ミヤコグサは数株見られたが、成虫、幼虫、卵共に見られなかった。調査不足?

(d) ミヤコグサは比較的多く、卵も見られた。2♂(M. H) 生見の駅の近くでも1♂を採集

ここまでしか調査しなかったので、これ以北は



次の調査を待たねばならない。

② タイワンツバメシジミ

(a) シバハギは若実が多く、花は少なかった。例年をらいるところだが、成虫、幼虫、卵共に見つからなかった。(H, T)

(b) シバハギには花が咲き、若実がついていたが、成虫、幼虫、卵共に見つからなかった。(H, T)。

(c) 1♂ (ボロ) (H, T) シバハギは若実が多く、花、ツボミは少なかった。幼虫、卵は見つからなかった。(H, T)。

本種が少なかったのはちょっと、意外であった。

③ タテハモドキ

(a) 4頭採集(3秋型、1夏型)(M, H) 1頭(秋型)(H, T) 7頭(秋型)(S, N) 2頭(秋型)(H, A)

いつもいるところで、ちょうど夏型と秋型の交代期で、両者が混飛していた。夏型は不完全なものがほとんどで、秋型はいずれも新鮮な個体であった。とても多い。

(c) 水田の刈あとで1頭目撃。(H, T)

以上3種のみについて述べたが、今回の探索会の成果はあったと思う。

※ これは鹿大生研と鹿児島昆虫同好会との共催によるはじめての探索会である。

(教育 3年)

「鹿児島自然」発刊について

今年7月に鹿児島で開かれる「日本生物教育会第19回全国大会」を記念して発刊される。

本県の生物とこれととりまく自然の特性について、それぞれの専門分野に於ける権威ある先生方によって執筆されたものである。

B5版、400余ページ、800円前後、申込期日は5月10日まで、問い合わせは：鹿児島市薬師町35鹿児島県立鶴丸高等学校生物室内 税所篤知先生

高千穂峰南麓地域産の蝶類目録

吉 川 正 一

I はじめに

ここに上げる記録は私自身の採集記録のみである。この地域で継続して採集している人は別になく、小中学生の夏休み中の一時的な採集のみである。したがって他にはつきりした採集記録もないためこれだけにとどめる。

私自身もまだ深く研究していないため、記録にも乏しく、未発見の種もかなり残っているものと思う。今回の十月の採集をもつて今後この地域で定期的な採集はできなくなるため、今までの記録を資料としてまとめるものである。

II 凡 例

1. 種名の配列順序、学名および和名は原色昆虫大図鑑 I (北隆館) に従つた。
2. 採集期間は 1952 年 7 月～1963 年 10 月の間である。
3. 採集地域は、宮崎県北諸県郡荘内町大字西岳が主で、その周辺部分が少し鹿児島県あるいは宮崎県の他の町村に及んでいる。地図に示した範囲がその大略である。(海拔 300～1574 m)

(採集地名)

高野 : 自宅のある所でその付近一帯の人家密集地とその周辺をさす。

俵迫 : 高野の一部であるが人家はなく特別な採集地であり広い原野とクヌギ林が在るので別に分ける。

陣ヶ岡 : 高野の南側 1 km にある小高い丘と原野をさす。海拔 386.6 m, 1962 年 10 月まで広大なクヌギ林が存在した。

胡麻ヶ野および大塚 : 俵迫, 陣ヶ岡の南 2 km にある部落及びその周辺。海拔 300 m 程度。処々に広いクヌギ林および原生林を残す。

上川内 : 高野の南東 2 km の一帯。水田地帯や雑木林などが多い。海拔 250 m 程度。

中ノ谷・大迫・夫婦櫛 : 高野の北 1～2 km の畑地およびクヌギ林の存在地。海拔 350 m 程度。

荒川内・板川内 : 高野から戸ノ口に至る途中で海拔 350～400 m 程度。広大な原生林の縁にある。

戸ノ口 : 高千穂峰南麓で広大な原野とクヌギ林および深い原生林の間にあるすぐれた採集地。海拔 400～700 m 程度。

水流川間および小川内 : 高野の西 5 km にある地域。深い原生林の縁にある。小川内は同町唯一

のカシワの自生地。海拔350~550m

須美ヶ橋および桑ノ木川内：小川内の南1kmにある原生林にかこまれた谷間。海拔350m~550m。

その他の地域として、田方・田吾所、栗場(250~370m)、折ヶ久保・市ノ久保・芹河内(300~450m)、上馬渡・牛ノ驕・東牛ノ驕・上牛ノ驕・御池(305m)、御池~戸ノ口(赤水)、戸ノ口~荒襲、高塚・大川原(鹿児島県)などがある。

又少数ではあるが、霧島山湯之野、湯之野~林田温泉、林田温泉、林田温泉~手洗温泉、中岳、新燃岳、獅子戸岳、韓国岳、海老野高原、大浪池中腹における採集記録を加えておく。

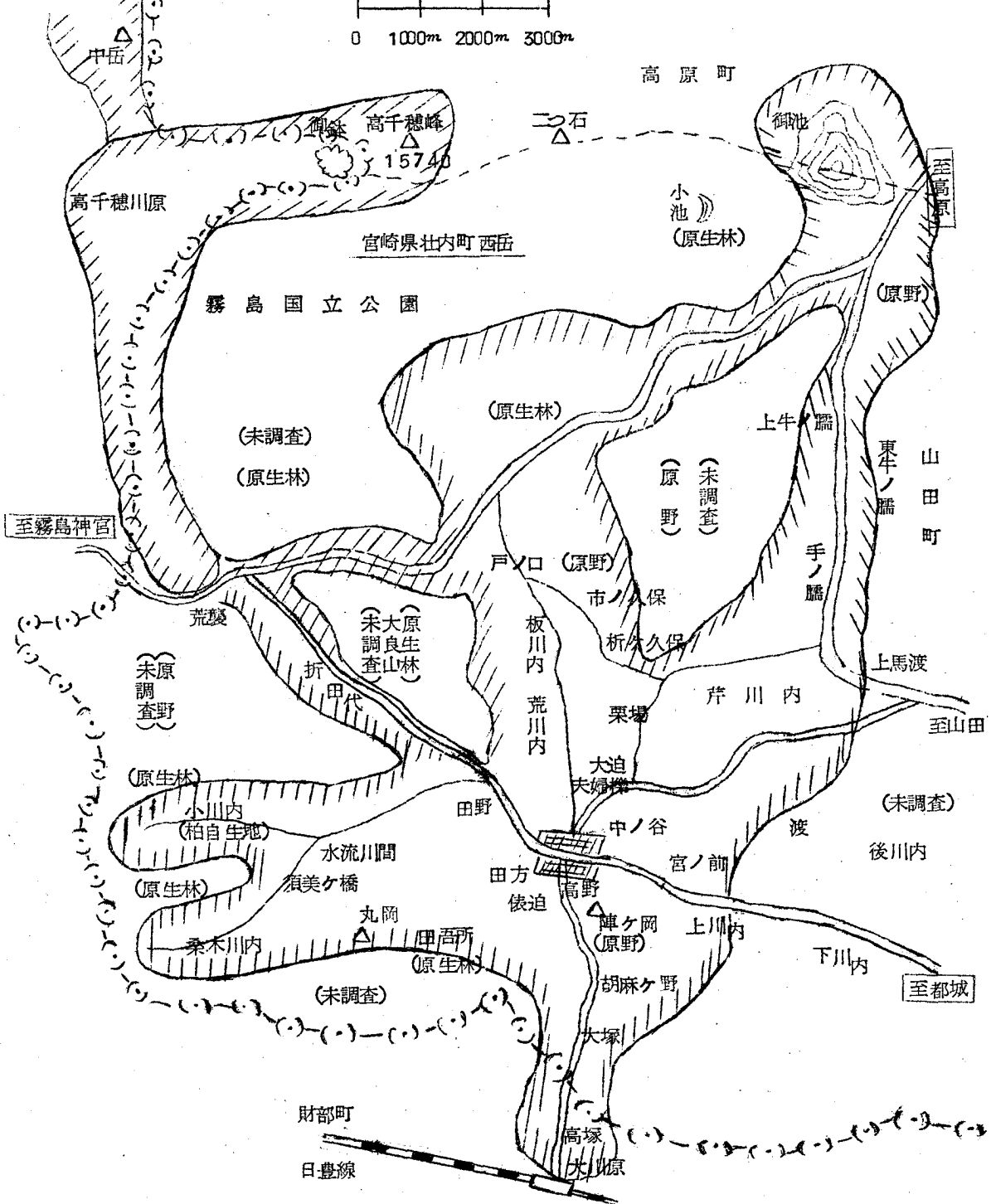
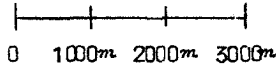
屋久島の昆虫

鹿児島大学生物研究会屋久島調査班

1963年4月6日~16日、生研の会員、田中 洋・田中 章・南野 稔・河野謙一の4名は、屋久島で昆虫を採取、調査してきた。主目的は蝶類の分布状況調査だったが、そのかたわらきわめて少数ではあるが他の昆虫も採取してきた。それぞれ専門家にさしあげて保存と研究をお願いしてあるので、本誌には蝶と蛾について報告した。

ゴキブリ目(朝比奈正二郎先生)、半翅目(長谷川仁先生)、膜翅目・双翅目(永富昭先生)、甲虫類(未定・少グループごとく鶴洪がまとめる予定)、トンボ類(朝比奈正二郎先生)

採集地の略図



III 目 録

(I) セセリチヨウ科

1. *Erynnis montanus* Bremer ミヤマセセリ

戸ノ口(1♂, 2頭目撃: 1963・Ⅲ・27) 俵迫(12♂♂: 1963・Ⅲ・31, 1♀: 1963・Ⅲ・31, 1♂, 目撃多数: 1963・Ⅳ・4) 芹河内(1♂: 1963・Ⅳ・3)。最盛期は3月末~4月初。いずれもクヌギのある原野。路上に吸水。タネツケバナに吸蜜。

2. *Daimio tethys daiseni* Riley ダイミヨウセセリ

陣ヶ岡(3頭: 1962・Ⅶ・13) 戸ノ口(2頭: 1962・Ⅷ・1) 高野(1頭: 1962・Ⅷ・20)。低地では至るところ多数見られる。人家の周辺や高千穂峰南側の高地では比較的少い。

3. *Choaspes benjamini japonica* Murray アオバセセリ

戸ノ口(2頭: 1962・Ⅷ・1, 3頭: 1962・Ⅷ・2) 御池(1頭, 目撃3頭: 1962, Ⅷ・3) 俵迫(1頭, 2令幼虫1頭: 1963・Ⅷ・5, 1令幼虫2頭: 1963・Ⅹ・17)。吸蜜植物: トリアシシヨウマ, チダケサシ, ノブドウ, ヤクシソウ。

4. *Bibasis apuilina chrysaeglia* Butler キバネセセリ

湯之野(1頭, 水銀灯に飛来: 1962・Ⅶ・17) 戸ノ口~高千穂峰頂上(1頭目撃: 1962・Ⅷ・1)

5. *Leptalina unicolor* Bremer et Grey ギンイチモンジセセリ

俵迫(3頭, 目撃多数: 1960・Ⅶ・19, 2頭: 1962・Ⅷ・5, 幼虫死体1個: 於チガヤ: 1962・Ⅸ・28) 戸ノ口(2頭: 1962・Ⅷ・1) 市ノ久保(1頭, 目撃多数: 1962・Ⅷ・1) 板川内(2頭, 他に2頭目撃: 1962・Ⅷ・2)。確実な発生地は陣ヶ岡の西側, 俵迫一帯の原野。戸ノ口~板川内間の原野および林道沿いのチガヤの群落を確認している。その他にも同じような原野は多数存在し, 今後発見されると思う。

6. *Thoressa varia* Murray コチャバネセセリ

高野(1頭: 1960・Ⅶ・19) 戸ノ口(2頭, 目撃多数: 1962・Ⅷ・1) 田野(1頭: 1963・Ⅲ・17) 俵迫(1頭: 1963・Ⅲ・29)。至るところに普通に産する。早春の吸蜜植物: タネツケバナ, ゲンゲ, アブラナ。秋: ソバが多い。夏: トリアシシヨウマ, チダケサシ, ヤクシソウ, ノブドウなど。

7. *Isoteimen lamprospilus* Felder et Felder ホソバセセリ

高野(1頭: 1960・Ⅶ・19) 戸ノ口(2頭: 1962・Ⅶ・29) 俵迫(1頭, 目撃多数: 1962・Ⅷ・5, 2頭: 1963・Ⅷ・5)。至るところに普通に産するが, 戸ノ口ではやや少く, 高地ではさらに少い。高野と俵迫付近の山に沿った水田周辺には特に多産する。

8. *Ochloides ochracea rihuchina* Butler ヒメキマダラセセリ
 田吾所(1頭:1960・Ⅷ・25) 柿ノ木谷(3頭:1962・Ⅷ・20)。どの地域でも8月下旬に入つて見られる。個体数はあまり多くない。
9. *Potanthus flavum* Murray キマダラセセリ
 高野(1頭:1960・Ⅷ・25) 湯之野(3頭, 目撃多数:1962・Ⅶ・17)。
 西岳地区では極めて少く, 発見も困難である。
10. *Polytrems pellucida* Murray オオチャバネセセリ
 高野(2頭:1962・Ⅶ・27, 1頭:1960・Ⅶ・15)。この地域では比較的少い種である。
11. *Polopidas mathias obertur* Evans チャバネセセリ
 高野(1頭:1960・Ⅶ・17) 俵迫(2頭:1960・Ⅶ・20) 大迫(1頭:1961・X・4)。
12. *Pelopidas jansonis* Butler ミヤマチャバネセセリ
 小川内(1頭:1963・Ⅲ・23) 俵迫(1頭, 目撃1頭:1963・Ⅲ・31)。
 タネツケバナで吸蜜する。
13. *Parnara guttata* Bremer et grey イチモンジセセリ
 高野(1頭:1960・Ⅶ・17, 1頭:1961・X・5, 2頭:1962・Ⅷ・5)
 普通種と思われる。
14. *Notocrypta curvifascia* Felder et Felder クロセセリ
 高野(1頭:1960・Ⅷ・25, 3頭:1962・Ⅷ・23) 栗場(1頭:1962・Ⅶ・29) 戸ノ口(1頭:1962・Ⅷ・2) 御池(1962・Ⅷ・3) 小川内(1頭:1963・Ⅷ・4)。吸蜜植物:アサガオ, ホウセンカ, ハナミヨウガ, カンナなど。
 山地では7月下旬~8月上旬が特に多く, 低地の平地では8月下旬~9月上旬に入つて新鮮な個体が多数見られる。

[II] アゲハチョウ科

15. *Byasa alcinous* Klug ジャコウアゲハ
 戸ノ口(1♂, 3頭目撃:1962・Ⅶ・29) 林田~手洗温泉(1♀:1962・Ⅶ・17) 丸尾(1♀:1962・Ⅷ・4)。高千穂峰の南麓一帯ではわずかであるが産するらしい。しかし高野付近の低地では産しないようである。
16. *Graphium sarpedon nipponum* Fruhstorfer アオスジアゲハ
 高野(1♂:1960・Ⅶ・17, 1♀2♂♂:1962・Ⅶ・13) 中ノ谷(1♀:1961・X・10) 大迫(1♀:1963・X・17) 戸ノ口(1♂:1962・Ⅶ・27)。多産種。十月にはソバの花で吸蜜する。

17. *Graphium doson albidum* Wileman ミカドアゲハ
 莊内町西岳小学校の校庭にある2本のオガタマノキより、蛹の殻2個を採集したのみで未だその姿を見ていない。この地に棲息することは確かだが、極めて少いらしい。自生のオガタマノキは俄迫で1本、戸ノ口で7本見られたが、蝶の姿は見られない。
18. *Papilio machaon hippocrates* C. et R. Felder キアゲハ
 高野(1頭:1962・Ⅶ・17, 1♀:1961・Ⅹ・18, 1♀1♂:1962・Ⅷ・1, 1♀:1962・Ⅲ・25) 戸ノ口(1♂:1962・Ⅷ・2) 俄迫(1♀:1961・Ⅹ・5) 獅子戸岳頂上(1♀:1962・Ⅷ・18)。普通種。吸蜜植物:オニユリ, カノコユリ, コオニユリ, ノウゼンカズラ, オミナエシ, フジバカマ, オトコヘシ, ヒヤクニチソウ, ソバ, セリ, ノダケ, セリモドキ, ミツバグサ など。食草:ミツバ, ノダケ, ミツバグサ, ヒカゲミツバ, ニンジンを確認。
19. *Papilio xuthus* Linne アゲハ
 高野(1♀:1962・Ⅶ・20, 1♂:1960・Ⅹ・8, 1♂:1961・Ⅹ・5, 2♀♀1♂:1962・Ⅲ・25, 2♀♀1♂:1962・Ⅶ・15) 戸ノ口(1♀:1962・Ⅷ・1)。普通種。食草:ユズ, イヌザンショウを確認。
20. *Papilio protenor demetrius* Cramer クロアゲハ
 高野(1♀1♂:1960・Ⅶ・19, 1♂:1962・Ⅳ・1, 1♀1♂:1962・Ⅷ・5) 林田温泉(2♂♂:1962・Ⅷ・4)。普通種。食草:ユズ, イヌザンショウを確認。
21. *Papilio macilentus* Janson オナガアゲハ
 戸ノ口(1♂:1962・Ⅶ・29) 林田温泉(2♂♂:1955・Ⅴ・5, 1♂:1962・Ⅷ・4)。高千穂峰南麓では極めて少く、低地では全く見られないようである。
 吸蜜植物:クサギ
22. *Papilio memmon thunbergii* Siebold ナガサキアゲハ
 高野(1♀1♂:1960・Ⅶ・17, 2♀♀:1962・Ⅶ・14, 2♂♂:1962・Ⅷ・5) 戸ノ口(1♀目撃:1962・Ⅷ・1)。低地では普通程度であるが、クロアゲハよりは少く、戸ノ口以上の高地ではほとんど産しないらしい。食草:ユズ, その他ニツケイの葉に産卵するのを時々見るが発生は見ない。吸蜜植物:オニユリ, コオニユリ, カノコユリ, クサギなど。
23. *Papilio helenus nicconicolens* Butler モンキアゲハ
 高野(1♂:1960・Ⅶ・19, 1♀:1962・Ⅶ・29) 板川内(1♀:1962・Ⅷ・1) 戸ノ口(1♂, 目撃多数:1962・Ⅷ・2)。高千穂峰南麓400~600m付近に多産する。食草:ユズ。戸ノ口以上の付近は多産するがユズが見あたらないので他のものによると思われる。
24. *Papilio bianor dehaani* C. et R. Felder カラスアゲハ

高野(1頭:1955・Ⅶ・中旬, 1♂:1962・Ⅷ・7) 戸ノ口(1♀:1962・Ⅷ・1)。稀種。戸ノ口ではやや多産。吸蜜植物:ユリ類, ソクズ。

25. *Papilio maackii tutanus* Fenton ミヤマカラスアゲハ

栗場(1♂:1962・Ⅷ・3) 高野(1♀:1962・Ⅷ・8) 戸ノ口(1♂, 目撃多数:1962・Ⅶ・2) 林田温泉(1♀1♂:1962・Ⅷ・4)。低地では稀であるが, 戸ノ口ではやや多産(カラスアゲハより多いらしい)し他の原生林にも稀に産する。

吸蜜植物:ユリ類

〔Ⅲ〕 シロチョウ科

26. *Eurema hecabe mandarina* de l'Orza キチョウ

高野(1♂:1960・Ⅶ・17) 俵迫(5♂♂2♀♀:1961・Ⅹ・5) 陣ヶ岡(3♂♂1♀:1961・Ⅹ・6) 柿ノ木谷(1♂1♀:1962・Ⅷ・9) 戸ノ口(1♀:1963・Ⅲ・15) 小川内(1♀1♂:1963・Ⅲ・28) 中ン谷(1♂:1963・Ⅹ・18)。多産種。食草:マルバハギ。

27. *Eurema laeta bethesha* Janson ツマグロキチョウ

夫婦樺(1頭:1961・Ⅹ・10) 小川内(2頭:1963・Ⅲ・27, 3頭:1963・Ⅷ・4) 俵迫(2頭:1963・Ⅲ・31) 中ン谷(3頭:1963・Ⅹ・18)。普通種。キチョウより少いらしい。食草:カララケツメイ

28. *Colias erate poligraphus* Motschulsky モンキチョウ

中ン谷(1♀:1955・Ⅴ・上旬) 高野(1♂:1963・Ⅲ・25) 俵迫(1♂:1963・Ⅲ・31)。当地では極めて稀である。

29. *Pieris rapae crucivora* Boisduval モンシロチョウ

高野(1♀1♂:1960・Ⅶ・19, 1♂:1962・Ⅷ・14) 戸ノ口(1♂:1962・Ⅷ・1)。多産種。食草:キャベツ, イヌガラシ, セイヨウフウチョウソウ等。

30. *Pieris melete* Menetries スジグロチョウ

高野(1♀1♂:1960・Ⅶ・20, 1♀1♂:1961・Ⅹ・5) 戸ノ口(1♀1♂:1962・Ⅷ・29) 小川内(5♂♂1♀:1963・Ⅲ・28) 中ン谷(2♀♀:1963・Ⅹ・18)。多産種。食草:キャベツその他アブラナ科の野菜, オランダガラシ。

〔Ⅳ〕 シジミチョウ科

31. *Panchala ganesa loomisi* Pryer ルーミスジミ

戸ノ口(1頭, 1頭目撃:1962・Ⅷ・1) 戸ノ口~荒川内(5頭目撃:1963・Ⅲ・27) 小川内(1頭:1963・Ⅲ・28) 俵迫(1頭目撃:1963・Ⅳ・7)。いずれもイチイガシの多い原生林。このほかに目撃は多数あるが局地的である。

32. *Narathura japonica* Murray ムラサキシジミ
 俵迫(1♀1♂:1960・Ⅶ・20) 陣ヶ岡(1♀1♂:1961・Ⅹ・5) 高野
 (1♀1♂:1962・Ⅷ・5) 戸ノ口(1♂:1962・Ⅷ・1, 2♀♀1♂:1963
 ・Ⅹ・17) 大迫(2♀♀:1963・Ⅹ・19)。多産種。ソバ, サザンカの花で吸蜜
 する。
33. *Narathura bazalus turbata* Butler ムラサキツバメ
 俵迫(2♀♀1♂:1961・Ⅹ・3, 1♂:1963・Ⅹ・17) 栗場(1♀:
 1962・Ⅷ・10) 夫婦樫(3♀♀1♂:1963・Ⅹ・18) 大迫(1♀:1963
 ・Ⅹ・19) 戸ノ口(1♀:1963・Ⅹ・17) 小川内(2♀♀:1963・Ⅷ・4)
 稀種。秋日ソバ, サザンカの花で吸蜜する。
34. *Antigius attilia* Bremer ミズイロオナガシジミ
 陣ヶ岡(1頭:1962・Ⅷ・5) 戸ノ口(1頭:1962・Ⅷ・1) 俵迫および戸ノ
 口において卵採集。結果は「SATSUMA」に発表してありここでは略す。(第37号,
 1963年)
35. *Lycaena phlaeas diamio* Seity ベニシジミ
 高野(1頭:1960・Ⅶ・17) 戸ノ口(1頭:1962・Ⅷ・2) 高野(1♂:
 1963・Ⅳ・8, 幼虫9頭:1963・Ⅰ・3)。普通種。食草:ギンギン。
36. *Taraka hamada* Druce ゴイシシジミ
 高野(1頭:1960・Ⅶ・17, 3頭:1962・Ⅷ・10, 1♂:1963・Ⅹ・
 16) 俵迫(1♀:1963・Ⅹ・18) 戸ノ口(2♂♂:1963・Ⅹ・17)
 大迫(2♂♂:1963・Ⅹ・19)。普通種。1960年の7月~8月には大発生。大迫
 での1♂はソバの花に吸蜜していたもの。
37. *Lampides boeticus* Linne ウラナミシジミ
 高野(1♂:1960・Ⅶ・15) 陣ヶ岡(1♀1♂:1960・Ⅶ・17) 俵迫(1
 ♀:1963・Ⅹ・18) 荒川内(1♂:1962・Ⅷ・1) 大迫(1♂:1963・
 Ⅹ・19)。普通種。低地の大豆畑にて夏 発生するのを見る。
38. *Zizeeria maha argia* Menetries ヤマトシジミ
 高野(1♀1♂:1960・Ⅷ・15, 1♀1♂:1962・Ⅷ・10, 1♀:1962・
 Ⅷ・25) 戸ノ口(1♀1♂:1962・Ⅷ・1) 陣ヶ岡(1♂:1962・Ⅷ・20)
 普通種。
39. *Celastrina argiolus ladonides* d'Orza ルリシジミ
 荒川内(1♂:1960・Ⅷ・23, 1♀1♂:1962・Ⅷ・1) 高野(1♂:
 1960・Ⅶ・17, 1♂:1963・Ⅳ・5) 板川内(5♂♂2♀♀:1963・Ⅲ・
 27) 戸ノ口(4♂♂1♀:1963・Ⅲ・27) 御池(3♂♂2♀:1963・Ⅳ・
 3) 小川内(2♂:1963・Ⅲ・28) 夫婦樫(1♂:1963・Ⅹ・17)。普通種。

40. *Celastrina puspa umenonis* Matsumura ヤクシマルリジミ
 高野(1♂:1961・Ⅷ・20, 幼虫1頭:1962・Ⅷ・25) 戸ノ口(1♂:
 1962・Ⅷ・1) 夫婦櫟(1♂:1963・X・18)。稀種。食草:イスノキ。ソバ
 の花に飛来。
41. *Celastrina albocaerulea sauteri* Fruhstorfer サツマンジミ
 戸ノ口(2♂:1962・Ⅷ・1, 1♂:1963・X・17) 御池(1♀:1962・
 Ⅷ・3) 俵迫(1♀:1963・X・18) 大迫(1♂:1963・X・19)。稀種。
 吸蜜植物:トリアンショウマ, ソバ, サザンカ。
42. *Everes argiades hellotia* Menetries ツバメシジミ
 高野(1♂2♀♀:1960・Ⅶ・17, 2♀♀2♂♂:1962・Ⅶ・28, 1♂:
 1963・Ⅷ・5) 小川内(1♂:1963・Ⅲ・28) 桑木川内(1♂:1963・
 Ⅲ・18) 俵迫(1♂:1963・Ⅲ・31, 1♂:1963・X・18) 戸ノ口
 (1♂:1963・Ⅲ・27)。普通種。

〔V〕 ウラギンシジミ科

43. *Curetis acuta paracuta* de Niceville ウラギンシジミ
 高野(1♂:1955・Ⅷ・中旬, 2♀♀:1960・Ⅶ・17, 1♀1♂:1962・
 Ⅷ・5) 陣ヶ岡(3♂♂:1960・Ⅶ・17) 荒川内(1♀:1962・Ⅷ・1)
 戸ノ口(5♂♂:1962・Ⅷ・2, 1♀1♂:1963・X・17) 俵迫(2♀♀1
 ♂:1963・X・18) 中ん谷(1♀:1963・X・19) 栗場(1♀:1963・
 X・19)

〔VI〕 テングチヨウ科

44. *Libythea celtis celtoides* Fruhstorfer テングチヨウ
 戸ノ口(1頭目撃:1960・X・15, 1♂, 3頭目撃:1963・Ⅲ・27, 1♂:
 :1963・X・17) 大塚(1♀:1963・Ⅲ・20) 桑木川内(2♂♂:1963
 ・Ⅲ・18) 小川内(1♂:1963・Ⅲ・14) 須美ヶ橋(1♂:1963・Ⅲ・
 18) 水流川間(1♂:1963・Ⅲ・18) 芹川内(1頭目撃:1963・Ⅳ・3)
 御池(2♀♀, 2頭目撃:1963・Ⅳ・3)。御池での2雌は産卵させ(於鹿児島市)飼
 育, 結果は別誌に発表する。吸蜜植物:ソバ(秋), ゲンゲ, タネツケバナ, カラシナ(以
 上春)。

〔VII〕 マダラチヨウ科

45. *Caduga sita nipponica* Noore アサギマダラ
 高野(1♀:1955・Ⅷ・中旬) 陣ヶ岡(1頭目撃:1956・X・上旬) 田吾所

(1頭目撃：1956・X・上旬) 俵迫(1♀：1960・Ⅷ・30, 1♀：1963・X・16) 下川内(1頭目撃：1960・X・10) 戸ノ口(2♀♀1♂, 1頭目撃：1961・X・10, 1♀3♂♂, 1頭目撃：1963・X・17) 高千穂河原(1♀：1961・X・11)。以上がこの科の記録で、確実に採集できるのは戸ノ口のみで他はきわめて稀である。吸蜜植物：ノダケ, ソバ。食草：キジョラン(栗場のキジョランで卵11個, 1令幼虫4頭, 2令幼虫5頭：1963・X・19)

Ⅳ) タテハチヨウ科

46. *argyroneme leodice japonica* Menetries ウラギンスジヒョウモン
栗場(1♂：1960・Ⅶ・5) 俵迫(1♂：1955・Ⅷ・上旬, 2♀♀1♂：1961・X・3) 大迫(3♀♀：1961・X・4) 中ン谷(5♀♀：1961・X・5) 夫婦櫛(1♀：1963・X・18→24個産卵)。10月ソバの花に吸蜜するものは割合多いが、他の時期では非常に少ない。秋の活動最盛期は9月下旬～10月上旬と思われる。10月中旬に入つて個体数は激減する。夏期クヌギの樹液に飛来するのを目撃(於俵迫)。
47. *Argyrome ruslana lysippe janson* オオウラギンスジヒョウモン
俵迫(1♀：1961・X・3) 大迫(1♀：1961・X・4) 中ン谷(1♀：1963・X・18→大破, 産卵せず死)。俵迫の1♀は竹やぶ中に休眠中のもので完全。大迫, 中ン谷の個体はソバの花に飛来したもの。
48. *Argynnis paphia geisha* Hemming ミドリヒョウモン
新燃岳西側(1♂：1962・Ⅶ・18)。吸蜜植物：ノブドウ。高千穂峰南麓一帯では未だ見ず。
49. *Argynnis anadyomene midas* Butler クモガタヒョウモン
大迫(1♂：1961・X・4) 夫婦櫛(1♀：1961・X・5, 1♀：1963・X・18→6個産卵) 俵迫(1♀1♂目撃：1963・X・19) 中ン谷(1♀目撃：1963・X・18) 戸ノ口(1♂1♀：1963・X・17→♀：33個産卵) 霧島神宮(1♀：1963・X・15→中破, 産卵せず死)。10月ソバの花に飛来するが、非常に少ない。10月に♂はクヌギ林に活発に飛ぶのを見る。
50. *Fabriciana adippe pallescens* Butler ウラギンヒョウモン
大迫(2♀♀1♂：1961・X・4, 1♀：1961・X・5) 夫婦櫛(3♀♀：1961・X・5) 戸ノ口(1♂：1961・X・7) 俵迫(1♀：1963・X・19→産卵せず死) 獅子戸岳～韓国岳(2♀♀1♂：1962・Ⅶ・18) えびの高原(3♀♀, 目撃多数：1962・Ⅶ・18)。10月ソバの花に飛来する個体はウラギンスジヒョウモンに次いで多い。吸蜜植物：オカトラノオ, ウツボグサ, ネズミモチ, ノアザミ, ノリウツギ, ボタンヅル, トリアシショウマ, チダケサシ, ソバ, リンドウ, ウメバチソウ, ヤマシラギク, ヤマジノギクなど。

51. *Fabriciana nerippe* C. et R. Felder オオウラギンヒョウモン
 中原(1♂:1961・X・3) 大迫(1♀:1961・X・4) 大迫(1頭目撃:
 1961・Ⅷ・3) 獅子戸岳(1♂, 3頭目撃:1962・Ⅶ・18)。吸蜜植物:トリ
 アシショウマ, チダケサシ, ヤブウツギ, ヤマボウシ, ネジキ, ソバ, ネズミモチ, オカト
 ラノオ。
52. *Argyreus hyperbius* Linne ツマグロヒョウモン
 高野(1♀:1960・Ⅶ・15, 1♂:1962・Ⅳ・1, 終令幼虫1頭, 3令幼虫
 1頭:1962・Ⅺ・25) 栗場(2♂♂:1960・Ⅶ・15, 1♂:1963・
 X・19) 俵迫(2♀♀3♂♂:1961・X・3, 3♀♀4♂♂:1963・X・
 18) 夫婦櫛(1♀2♂♂:1963・X・19) 大迫(1♂:1963・X・18)
 中ン谷(1♀:1961・Ⅶ・16, 1♀:1963・Ⅳ・1, 1♀1♂:1963・
 X・18) 戸ノ口(5♀♀5♂♂:1961・X・7, 1♀:1963・X・17)
 荒川内(1♀:1961・X・7) 牛ノ臈(1♂:1963・Ⅳ・3)。普通種。吸蜜植
 物:ヤクシソウ, アブラナ, オランダガラシ, ソバ, ヒガンザクラ, ゲンゲなど。食草:ニ
 ヨイスマレ(ツボスマレ), スミレ, ケマルバスマレ等を確認, 越冬幼虫はハコベ(ナデシ
 コ科)も食している。
53. *Damosa sagana liane* Fruhstorfer メスグロヒョウモン
 俵迫(2♀♀:1961・X・3, 2♀♀:1962・X・10, 2♀♀:1962・
 X・5) 大迫(1♀:1961・X・4, 2♀:1963・X・18→1♀:71個産
 卵, 1♀:産卵せず死) 夫婦櫛(1♂:1961・X・5) 高野(1♀目撃:1963・
 X・19) 中ン谷(3♀♀目撃:1961・X・5)。吸蜜植物:クズ, ソバ, ヒヨドリ
 パナ。この地域でのヒョウモン類の個体数は, ツマグロヒョウモンが最も多く, それに次い
 でウラギンスジヒョウモン, メスグロヒョウモン, クモガタヒョウモン, ウラギンヒョウモ
 ン, オオウラギンスジヒョウモン, オオウラギンヒョウモン等は少く, ミドリヒョウモンは
 まだ確認出来ない。
54. *Ladoga camilla japonica* Menetries イチモンジチヨウ
 高野(1♂:1960・Ⅶ・17, 1♀:1962・Ⅷ・5) 大迫(3♂♂:1961・
 X・4) 夫婦櫛(5♂♂:1961・X・5, 1♀:1963・X・18) 陣ヶ岡
 (1♂:1962・Ⅷ・10) 戸ノ口(1♂:1962・Ⅷ・1) 中ン谷(1♀1♂:
 1963・X・5)。多産種。吸蜜植物:クヌギの樹液, ソバ, スイカズラ, ヒャクニチソ
 ウなど。
55. *Neptis aceris intermedia* W. B. Pryer コミスジ
 高野(1♂1960・Ⅶ・17, 2頭:1961・X・10, 1♀1♂:1962・Ⅶ
 ・13) 戸ノ口(1頭, 目撃多数:1962・Ⅷ・2)。野外での食草は未確認であるが
 自宅庭のシラハギでは毎年多数発生している。また平地にも多いが戸ノ口ではきわめて多産

する。

56. *Araschinia burejana strigosa* Butler サカハチチョウ

戸ノ口(1頭:1962・Ⅷ・2) 湯之野(2頭:1962・Ⅷ・16, 1頭:1962・Ⅷ・17) 林田温泉(1頭:1962・Ⅷ・4)。戸ノ口ではこの1頭が唯一の記録である。

57. *Polygonia c-aureum* Linné キタテハ

高野(1頭:1960・Ⅷ・19, 1♀1♂:1962・Ⅷ・10) 俵迫(5頭:1961・X・3, 2頭:1963・X・18) 大迫(2頭:1961・X・4, 1頭:1963・X・19) 中ノ谷(2頭:1961・X・4) 戸ノ口(2頭:1963・X・17) 小川内(2頭:1963・Ⅲ・28)。多産種。

58. *Kaniska canace no-japonicum* von Siebold ルリタテハ

高野(1♀:1961・X・5) 陣ヶ岡(2頭:1960・Ⅷ・17) 俵迫(5頭:1963・X・18) 夫婦櫛(1頭:1955・Ⅷ・上旬, 2頭:1961・X・5) 大迫(1頭:1961・X・5, 1頭:1963・X・19) 荒川内(2頭:1961・Ⅷ・29) 戸ノ口(多数目撃:1961・Ⅷ・14, 多数目撃:1961・X・10, 1頭:1963・X・17) 桑木川内(2頭:1963・Ⅲ・18) 須美ヶ橋(1頭:1963・Ⅲ・18) 大塚(1頭:1963・Ⅲ・20) 大川阿(1頭:1963・Ⅲ・20) 小川内(1頭:1963・Ⅲ・28)。普通種である。食草は未確認, 夏季クヌギ, ニレの樹液に飛来するものが多く, 秋季は柿の熟して腐敗したもの, まれにソバの花に飛来する。

59. *Vanessa caradui* Linné ヒメアカタテハ

俵迫(1頭:1961・X・5, 5頭:1963・X・18) 中ノ谷(1頭:1961・X・4, 2頭:1963・X・19) 大迫(1頭:1961・X・4) 夫婦櫛(2頭:1961・X・4, 1頭:1963・X・19) 戸ノ口(2頭:1963・X・17) 普通種であるが, 10月以外はまったく見ていない。記録はすべてソバの花に飛来したもの。1度カキの熟したもので吸蜜するのを目撃した。

60. *Vanessa indica* Herbst アカタテハ

高野(1頭:1955・Ⅷ・上旬, 1頭:1962・Ⅺ・26) 陣ヶ岡(1960・Ⅷ・13, 1頭:1960・Ⅷ・20) 俵迫(2頭:1961・X・4) 戸ノ口(5頭, 多数目撃:1961・X・10, 1頭:1963・X・17) 大迫(1頭:1963・X・19) 小川内(1頭:1963・Ⅲ・14)。普通種である。戸ノ口には秋季多産する。戸ノ口付近にはラミー, カラムシなどなく, コアカソにも幼虫が見られず, しかも成虫はケヤキとエノキの混合林付近のソバ畑に多いことが注目すべき点である。

61. *Cyrestis thyodamas mabella* Fruhstorfer イシガクチョウ

高野(1♀:1955・Ⅷ・中旬, 1頭目撃:1955・Ⅷ・上旬, 1頭目撃:1962・

Ⅷ・13) 上川内(1頭目撃:1962・Ⅷ・10) 俵迫(1♀1♂:1961・X・5, 1♂:1962・X・10) 中ノ谷(1♂:1961・X・4) 大迫(1♀:1961・X・4, 1♀:1963・X・18) 戸ノ口(3♀3♂, 多数目撃:1961・X・10, 1♀1♂:1962・Ⅷ・1, 1♀:1962・Ⅷ・3, 5頭目撃:1963・X・17) 御池(1♀:1962・Ⅷ・3, 卵1個(於イヌビワ)→⁵/Ⅷフ化→²⁰/Ⅷ蛹化→²⁵/Ⅷ羽化, 1♀(イチヂクで飼育))。低地には少いが、戸ノ口ではきわめて多産する。自然状態で低地ではイヌビワ、ホソバイヌビワに発生し、1度自宅庭のイチヂクで発生しているのを見る。吸蜜植物:ヤクシソウ, アキノノグシ, ヤマニガナ, ノダケ, ヒヨドリバナ, フジバカマ, クズ, ソバ, サザンカ。

62. *Dichorragia nesimachus nesiotus* Fruhstorfer スミナガシ
陣ヶ岡(3頭:1955・Ⅷ・中旬) 俵迫(1♀2♂♂:1963・Ⅷ・28) 戸ノ口(1♂, 1頭目撃:1962・Ⅷ・1) 高野(1頭目撃:1962・Ⅷ・10)。
1955年は採集のほかにも目撃も多かつたのであるが、その後非常に減少している。クヌギ、ニレの樹液を吸収しているものや路上で吸水するものなど見かける。また食樹ヤマビワはいたるところの雑木林にある。

63. *Apatura ilia* f. *substituta* Butler コムラサキ
Apatura ilia f. *mikuni* Wileman クロコムラサキ
高野(1♂(黒色型):1960・Ⅶ・20, 1♀(黒色型):1960・Ⅶ・17, 1♀(正常型):1960・Ⅶ・17, 1♀(正常型):1962・X・3, 1♂(正常型):1960・X・5, 1♂(黒色型):1962・Ⅷ・10, 1♀(黒色型):1962・X・3) 陣ヶ岡(1♂(正常型):1962・Ⅷ・5) 水流川間(1♂(正常型):1963・Ⅷ・5) 小川内(1♀(正常型):1963・Ⅷ・5)。両方の比率は、黒色型対正常型が2対3の記録であり、このほかに目撃個体を加えても正常型が黒色型に対してやや多いらしい。この地ではヤナギを庭に植えてあるところはほとんどなく、したがって個体数もかなり少い。川辺のネコヤナギに産卵するのを目撃している。

64. *Hestina japonica* G. et R. Felder ゴマダラチョウ
高野(1頭目撃:1955・Ⅶ・下旬, 1頭:1960・Ⅶ・17) 俵迫(1頭:1960・Ⅶ・20) 陣ヶ岡(1頭:1960・Ⅶ・20) 栗場(3♀♀1♂:1962・Ⅷ・5, 越冬幼虫2頭:1963・Ⅲ・25) 西岳中学校校庭(1♀:1962・Ⅷ・10, 越冬幼虫5頭:1963・I・5) 戸ノ口(1♀:1962・Ⅷ・1, 越冬幼虫11頭:1963・Ⅲ・12) 小川内(越冬幼虫2頭:1963・Ⅲ・14)。食樹のエノキが少く、したがって個体数も少い。

[X] ジヤノメチヨウ科

65. *Ypthima argus* Butler ヒメウラナミジャノメ

- 高野(2頭:1960・Ⅶ・17, 1♀:1960・Ⅷ・29, 2頭:1962・Ⅶ・12) 俵迫(1♂:1963・Ⅹ・18) 大迫(1♀:1963・Ⅹ・19)。低地ではいたるところに多産するが、戸ノ口付近では少い。
66. *Ypthima motschulsleyi* Bremer et Grey ウラナミジャノメ
林田温泉～手洗温泉(2頭:1962・Ⅶ・17)。高千穂峰南麓 一帯およびそれにつづく低地でも未だ目撃していない。
67. *Minois dryas bipunctatus* Motschulskey ジャノメチョウ
陣ヶ岡(2♀♀2♂♂:1955・Ⅶ・中旬, 3♀♀2♂♂:1962・Ⅶ・26)
夫婦樺(1♀:1955・Ⅶ・上旬) 戸ノ口(1♀:1962・Ⅷ・1, 1♀目撃:
1963・Ⅷ・16) 大塚(2♀♀:1963・Ⅶ・28→多数の卵を枯葉や土の上に産んだが1～5日間でひからびてしまい、飼育に失敗)。陣ヶ岡一帯の原野には多産していたが、近年急激に減少しつつある。他の原野でも減少する傾向がある。
68. *Lethe biana* Butler クロヒカゲ
高野(1♀1♂:1960・Ⅶ・20, 1♀1♂:1962・Ⅶ・13) 陣ヶ岡(1♂:
1962・Ⅶ・10) 夫婦樺(1♂:1960・Ⅷ・5) 俵迫(1♀1♂:1963・Ⅹ・18) 戸ノ口(1♂:1963・Ⅹ・17)。いたるところ多産する。
69. *Neope goshkevitschii goshkevitschii* Ménètriés キマダラヒカゲ
陣ヶ岡(1頭:1960・Ⅶ・20, 1♀1♂:1962・Ⅶ・27) 高野(1♀:
1962・Ⅶ・28)。至るところどこでも多産する。1960年は大発生し、大群をなした。翌年の1961年は少く、その後また次第に増加しつつある。
70. *Mycalasis gotama fulginia* Fruhstorfer ヒメジャノメ
高野(1♀:1960・Ⅶ・17, 1♂:1960・Ⅶ・20, 1♀:1960・Ⅶ・28,
1♀1♂:1962・Ⅶ・28)。低地には多産する。しかし戸ノ口付近は少い。
71. *Mycalasis francisca perdicus* Hewitson コジャノメ
俵迫(1頭:1960・Ⅶ・20) 中ン谷(1♀1♂:1962・Ⅷ・10) 高野(1♂:
1962・Ⅶ・28, 2♀♀1♂:1962・Ⅷ・25) 戸ノ口(1♂:1962・Ⅷ・2)。普通種。
72. *Melanitis phedima oitensis* Matsumura クロコノマチョウ
俵迫(3♀♀3♂♂:1960・Ⅹ・5, 1♀1♂:1963・Ⅹ・18) 戸ノ口(1♀:
1963・Ⅹ・17) 中ン谷(2♀♀2♂♂:1962・Ⅹ・10) 大迫(2♀♀1♂:
1960・Ⅹ・8) 高野(1♀:1962・Ⅹ・9) 陣ヶ岡(1♀:1963・Ⅺ・28)。多産種。

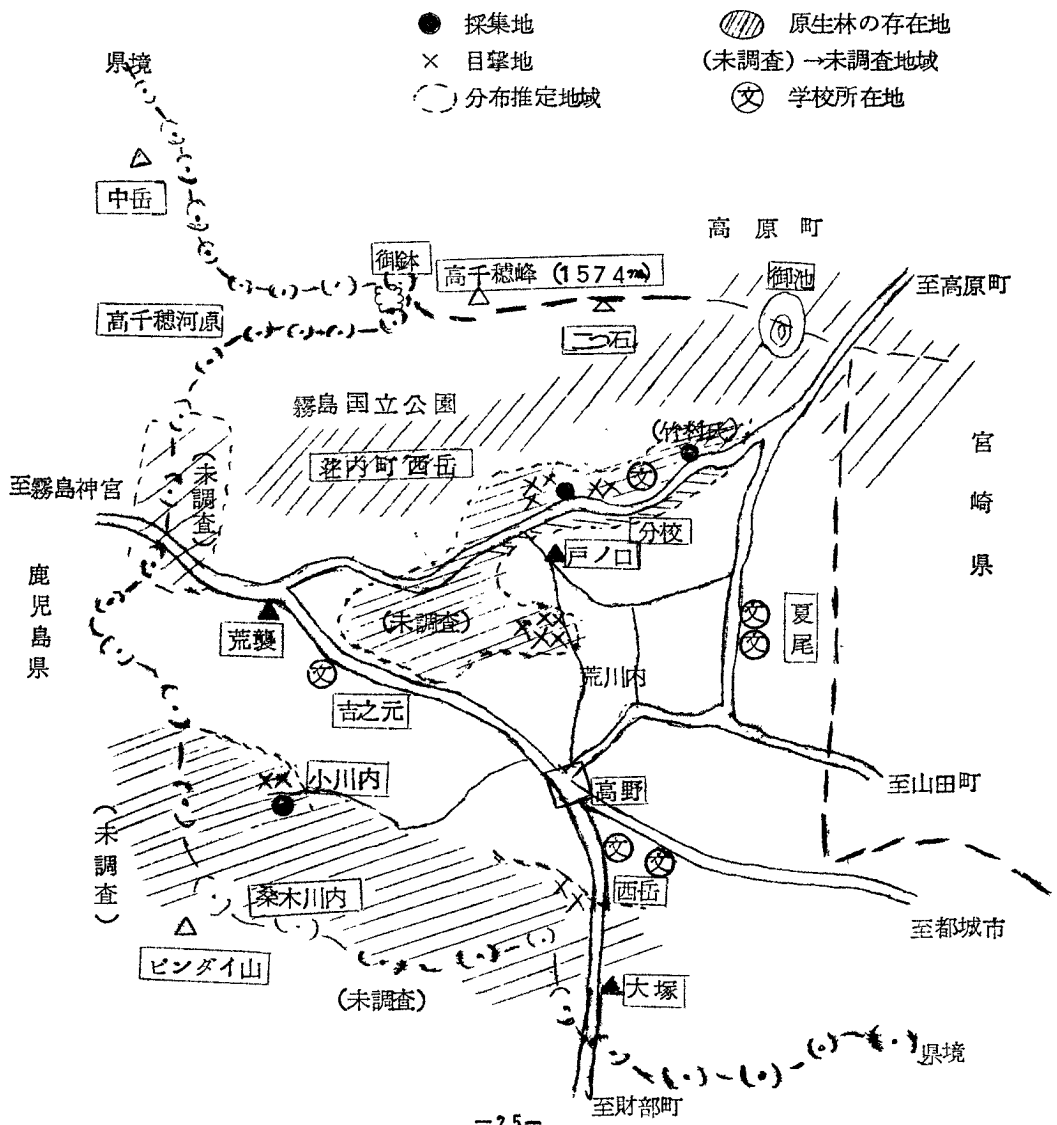
このほか採集にはいたっていないが、それらしき個体の目撃には次のようなものがある。
・キリシマミドリシジミ: 戸ノ口の原生林内で数回目撃。7月下旬。

- ・コツバメ：戸ノ口において1963年3月下旬に2頭目撃。
- ・ミスジチョウ：依迫近くの雑木林近い林道でコムスジに似てこれよりもかなり大きく、メスグロヒヨウモン、ゴマダラチョウとも違いのを目撃。すべるように飛んできて沿道の花にとまつたが谷風のため採集できず。1960年7月中旬。
数回の調査にもかかわらず、まったく目撃できなかったもの。
- ・ツマキチョウ：1963年3月下旬～4月上旬

資料整理 1962年11月～1963年10月
筆写日 1963年10月24日
(教育学部四年)

(附) ルーミスジミ分布推定図

資料不足で十分でないが今後の採集者へのためにまとめるものである。



1963年4月・屋久島の蝶類採集報告

田	中	洋
田	中	章
南	野	稔

屋久島を訪れる蝶採集者の数は毎年多いようである。しかし、来島した採集家の報告は乏しく、また地元でガッチリ採集する人もないらしく、屋久島の蝶類に関する資料は決して多くない。とくに「鹿児島県の蝶類」(福田, 田中, 1962)をまとめる時、分布記録さえ、とても乏しいことを痛感したし、多くの問題点を残したまま忘れられているのに気づいた。

そこで、1963年4月春休みを利用して、我々3人はもう1人の同好者、河野謙一氏(文理学部2年)とともに屋久島南部平地を歩くことができた。1963年の冬は「寒い冬」または「雪の多い冬」だったのか、4月上旬屋久島高地ではまだ雪が深かったし降っていたということで、平地でもかなり冷えこんだ。そのためかどうかわからないが、蝶の発生もおくれているように思われた。そんな条件のもとで、好成績とは言えないまでも、分布状況や発生状況についていくらかの新知見が得られたので報告したい。(今回は生活をじっくり眺めるといふことより、まず初歩的知識になる分布資料の収集に重点をおいた。)

今回は次のような点を主な目的としたが、大部分はネガティブの結果に終わった。(順不同)

- 1) ウスイコロノマチョウの越冬個体の採取、アマミウラナミシジミ春型の発生
- 2) ヤクシマルリシジミの春の発生状況
- 3) シルビアシジミが分布しているかどうか。ミヤコグサの分布
- 4) スギタニルリシジミは分布していないか。
- 5) カバマダラは越冬できたかどうか。
- 6) タテハモドキの生活、ウラナミシジミの越冬地、キアゲハの分布と食草
- 7) ミヤマカラスアゲハの食草の確認、ルリタテハの地理的変異
- 8) そのほか「普通種」の分布状況を確認し、個体数の多少を確認すること。

とくに ① 記録の乏しい種(ツマキチョウ、コムスジなど)の分布状況

② 九州本島が南限となっている蝶(コチャバナセセリ、トラフシジミなど)

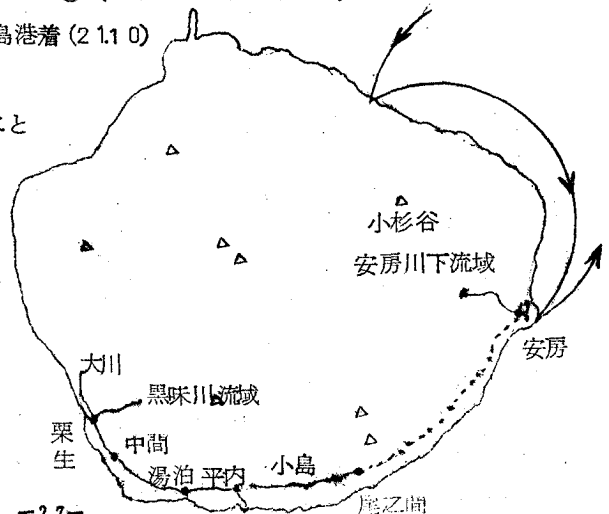
③ 屋久島で1回記録があるが、その後再発見されていない種(ダイミヨウセリベニシジミ:種子島未記録)、種子島で1回記録はあるが屋久島未記録の蝶(ゴイシシジミ、キタテハ)の分布の確認

I コース、日程、天候

[1963年4月6日~4月16日]

- 6日：鹿児島港発(8.00) ⇒ 屋久島丸①◎ ⇒ 宮之浦着(13.43) ⇒ 屋久島丸〇〇
安房着(14.40)：安房◎小雨
- 7日：安房発(8.30) — ◎時々○ → 小杉谷の途中約8Kmの地点着(12.30) 昼食
(13.50) 折返し — ①時々◎ → 安房着(17.50)
- 8日：安房発(7.00) — バス①後◎● ⇒ 栗生着(9.05)：栗生●時々◎
- 9日：栗生発(8.30) — ①風強い → 黒味川流域(海拔500m付近まで)(14.30)
→ 下山(14.50) — ①強風 → 栗生着(18.10)：冷涼 晴天。
- 10日：栗生発(10.10) — ○ → 大川の河口着(13.35) 昼食 — 大川滝着(14.00)
○ → 大川滝発(15.20) 大川の河口発(16.30) — ○ → 栗生着(17.55)
- 11日：栗生発(9.35) — ① → 中間(10.55~11.05) ①◎ → 湯泊着(16.35)：荷物はバス便
- 12日：湯泊(9.50~10.40) — ◎① → 平内着(11.40) 昼食 → 平内発(13.00)
— ◎ → 小島(14.45~15.00) — ◎ → 尾ノ間着(15.40)
尾ノ間発(16.05) = バス ⇒ 安房着(16.55)：荷物はバス便
- 13日：安房S◎(10.30~12.30)：N●(14.00~15.00)
- 14日：安房発(9.45) — ◎① → 小杉谷への途中約4Kmの地点(12.00~13.40)
：安房N◎●(14.40~17.30)
- 15日：安房●◎S(10.20~12.20)：安房~小杉谷への途中約4Kmの地点◎①(14.00~17.35)
- 16日：安房N〇(8.30~9.20)：S〇(9.30~11.20)
安房発 ⇒ 屋久島丸① ⇒ 鹿児島港着(21.10)

(注) — は採集コース
⇒ は船またはバスを利用したことを示す。



II 採集、調査結果

- 採集地の概要についての記述は、不本意なことだが、今回はできなかった。
- この項目では、我々3人の採集した標本をもとにそのデータをあげ、幼生期の記録を記す。
したがって分布状況は別表に示してあるので、この項はより客観的データを示すことが目的のひとつとなる。(ただし、各種の文末には考察も記すことにする。)
- 記載の順序は、A採集地(♂♀と数:月・日、採集者)の順にし、採集者名の略号は、H=田中洋、A=田中章、S=南部彌を使う。B幼生期の記録、Cそのほか。

セゼリチヨウ科

1. アオバセセリ

- A. 安房(2:N.13, A) 安房~小杉谷<0~200m>米(1:N.14, S)(1:N.14, H)(4:N.15, S) 米以下すべて同じ。
小島(1:N.12, S) 湯泊(1:N.12, A) 湯泊~平内(1:N.12, A)
- B. 中間~湯泊 N.11 蛹の死体1個 ヤマビワの根際より5~6mはなれたクマイチゴの葉表, 4卵(古葉裏・新葉裏に各2個)→N.17 ふ化→V 10行方不明, H&A
- C. 歩いたコースのどの樹林にもヤマビワが多く, 12日以後は成虫も多かった。分布も広く, ♀暖帯林の蝶々といえそう。11日にすでに卵もみられたので, もっと早くから成虫は出ているのだろう。みつけた蛹は死んでいたが, 食樹からはなれていた。越冬蛹だろうか。

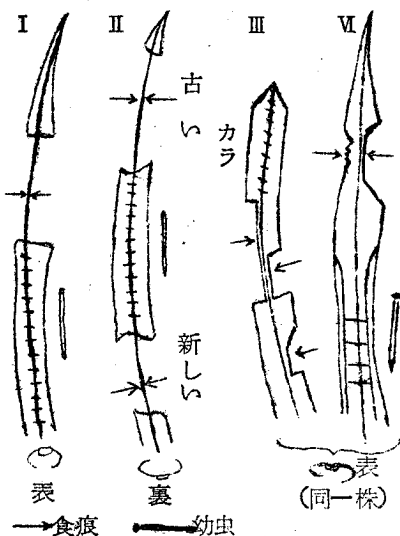
2. キマダラセセリ

- B. 黒味川流域:N.9 中令幼虫3匹をススキより採取, H→4月10日郵送したものが, 我々帰鹿後の17日に到着したこともあって, 飼育はうまくいかなかった。

- C. 屋久島では小杉谷という記録があるだけで, 今回の記録は新産地であり幼虫ははじめてのことと思う。ほかでも時々さがしたが見つからなかった。

採取したときの幼虫と巣の状態は右図のように変化に富んでいた。幼虫の生育程度は一見して区別できるものでなかったが, 巣作りと食べ方を暗示していると思われた。摂食が先か, 巣作りが先か興味深い, 食べ方としてはN→I→II→IIIという順だと思われる。また, 巣を作るのに, 表を内側にするものと, 裏を内側にするものがある。

(IIIの幼虫はNに行ったものと思う。)



3. クロロセリ

- C. わずか1回、大川の河口で10日に1匹見ただけだった。黒味川や大川の樹林内のミヨウガ科の一種でさがしたが、幼虫・蛹ともみつからなかった。部落周辺のミヨウガ科はあまりしらべなかつた。

アゲハチヨウ科

4. ジャコウアゲハ

- C. 生きた♀や卵など持ち帰るのは今回の目的のひとつだったが、時期が早すぎたのか栗生の海岸際のオオバウマノスズクサ群落で1回姿をみたにすぎない(11日)。平内の海岸でも食草の群落でさがしたが、卵・蛹なども得られなかった。

5. アオスジアゲハ

- A. 安房N (1♂: N. 16, S) (1♀: N. 16, H) (1♀: N. 16, 川東伊知男)
安房S (1♂: N. 16, H) 安房~小杉谷 (1♂: N. 15, S)
中間~湯泊 (1♂: N. 11, A) 栗生~大川 (1♀: N. 10, H)

- C. ちょうど発生期の初めらしく、個体数はそんなに多くはなかつた。◦暖帯林の代表的蝶◦という感じが強かつた。

6. ミカドアゲハ

- A. 湯泊 (1♀, 0: N. 12, H)

- B. 安房~小杉谷: N. 15 オガタマノキの大木を下から眺めて、枯れた葉裏より蛹2個体を発見・採取した。→N. 19. 1♂羽化、他の個体は同じ頃成虫化して割れたが羽化に失敗した、H。

- C. 12日の1♀はすこし風のある中でギンギシの花にハネをとじて止っているのをとったもので羽化後まもないものと思われた。ほかには確実なものはありませんが15日には何頭かみられた。なお、2頭とも裏面の紋は橙色だった。

今まで報告されたのは、一湊と安房~尾之間のみであり、島内での分布や発生の多少は不詳。

7. キアゲハ

- A. 栗生 (1♀: N. 11, S) 中間~湯泊 (1♀, 2: N. 11, H) (1♀: N. 11, A)

- B. 栗生~中間: N. 11 ボタンボウフウより若令幼虫2, 卵5, ハマウドより卵2を採取。
{ L→V. 5 P1 (ほかは終令で死亡) →V. 17 1♂羽化, H
{ E→V. 11までに全滅(病死らしい), H & S

- C. 屋久島での分布に興味をもっていたが、海岸付近でしか得られず、安房付近では1回も姿をみなかった。従来の記録は永田、宮之浦岳頂上、栗生のみしか知られず、最近いくつか追加された(文献2.3)。食草と関連づけて分布をしらべる必要があろう。今までは海岸での食草しか知られていないが、ミツバ・セリ・ニンジンなどはどうなのだろうか。

8. アゲハ

- A. 安房^S (1♀:N.13, S) (2♂1♀:N.16, S) (1♀:N.16, 川東)
安房~小杉谷 (1♀:N.14, H) (1♂:N.15, S)
栗生~大川 (1♀:N.10, S) (1♂:N.10, A) 大川流域 (1♂:N.10, S)
栗生~中間 (2♂:N.11, S) 中間~湯泊 (1♀:N.11, A)
- B. 安房~小杉谷:N.15 E (+) カラスザンショウ, A
安房:N.13 E1 カラスザンショウ, N.14 E2 カラスザンショウ, H
中間~湯泊:N.11 E1, 若令 L5 イヌザンショウ, 河野謙一

※以上 いずれも飼育に失敗した。病死らしい。

- C. 従来の記録はきわめて少ない。その面積に比べて人家の少ない屋久島でのアゲハの生活を知ることは、ミカンやカラタチが栽植される以前の状態に近いものを知ることになると思うと興味深い。今回の経験では人家附近とともに伐植地に多かったように思う。自然状態での荒地というのはいられないようだった。

(附) 4月6日 宮之浦の海上で屋久島丸上に飛んできた1頭をみた。

9. クロアゲハ

- A. 安房~小杉谷 (1♂:N.14, H) (2♂2♀:N.15, H) (1♂:N.15, A)
黒味川流域 (1♀, 0:N.9, S) 中間~湯泊 (1♂:N.11, H) (1♂:N.11, A)

- B. 安房~小杉谷:N.15採の2♀より採卵

①N.18~19 産卵46個→N.20 ♀死

N.24~26ふ化→Ⅴ3 (1♂♀) Ⅴ.4 (1♂♀) Ⅴ.6 (1♂) 羽化

②N.19~20 産卵5個→1卵つぶれる。

N.23 ふ化1→Ⅴ.9終令となる→Ⅴ.16 P→Ⅴ.29 ♂羽化

N.27 ふ化3→Ⅴ.15終令1頭残る→Ⅴ.23 P→Ⅴ.6 ♂羽化

- C. 従来の記録は少なく、とくに平地での記録はあまりなかったが、広く分布しているらしい。

10. モンキアゲハ

- A. 安房~小杉谷 (1♂:N.14, S)
中間~湯泊 (1♂:N.11, S) (1♂, 2:N.11, A)
平内 (1♂:N.12, A)

- C. 従来の分布記録は広いが、今回は個体数も少なく、ほとんどその生活のようすを見ることができなかった。発生の初期だったと思う。もし、今回の短期間の屋久島滞在中の経験だけから推定すると、クロアゲハの発生についてモンキアゲハ、そのあとでナガサキアゲハ(今回無記録)が羽化するのだろう。しかし、クロアゲハやモンキアゲハでは発生のごく初期でも中破した個体がとれることがあるのはなぜだかわからない。

11. ミヤマカラスアゲハ

A. 安房～小杉谷 (1♂, 2; N. 7, A) (1♂: N. 15, S)

栗生 (1♂, 0; N. 11, S) 中間～湯泊 (1♀死体: N. 11, H)

C. 屋久島における食草調査と生きた材料を持ち帰ることが目的のひとつだったが、どちらも果し得なかった。しかし、4月15日 安房から小杉谷へのトコ線を2km位歩いた付近の空地林縁で16時から17時10分までカラスザンショウ (地上4～5m以上) の上空をくゆうゆうくと飛びまわる1頭を下から眺めることができた。産卵行動らしいものもみられず、食樹に止ることもなかったので、♀を求める♂かとも思われたが確認できないまま、17時10分、夕日をあびてくゆうゆうと飛び去った。この光景は実に印象的だった。(カラスザンショウはすでに若芽がのびており、幼木ではすでにアゲハの卵がみつかった。木の大小で、葉のほうも葉相々が変わるのだろうか。)

従来は北半の分布しか知られていなかったが、南半にも広く分布することがわかった。

シロチヨウ科

12. キチヨウ (すべて越冬個体と思われる秋型)

A. 安房 S (1♂: N. 15, H) 安房～小杉谷 (1♀: N. 7, S) (1♂: N. 7, H)

(2♂: N. 7, A) (1♂: N. 14, H) (1♂: N. 14, S) (1♂: N. 15, H) (1♂♀: N. 15, S)

栗生～大川 (1♂: N. 10, H) (1♂: N. 10, S) (2♂1♀: N. 10, A)

栗生～中間 (2♂1♀: N. 11, S) (1♀: N. 11, H)

中間～湯泊 (1♂: N. 11, S) (1♀: N. 11, A) 湯泊 (1♀: N. 12, A)

13. ツマグロキチヨウ (すべて秋型)

A. 安房 N (1♀: N. 6, A) S (1♂: N. 16, H) (1♂?: N. 16, S)

栗生～大川 (1♀: N. 10, S) (1♀: N. 10, H) (1♀: N. 10, A)

C. 安房区役所前の庭にカワラケツメイがあり、5cm位にのびていたが4月16日までは卵はみつからなかった。

A. 安房 (1♂: N. 16, A)

黒味川流域 (1♂: N. 9, 河野) 栗生 (1♂: N. 11, H) 栗生～大川 (1♂: N. 10, H) (1♀: N. 10, S) (3♂2♀: N. 10, A) 栗生～中間 (2♂1♀: N. 11, A) 中間～湯泊 (1♂: N. 11, A) 平内 (1♀: N. 12, 河野)

B. 黒味川流域: N. 9 タネツケバナにE6, L2→N. 24 全滅

栗生～大川: N. 10 タネツケバナにE廿, L1, 産卵→N. 25 全滅

中間～湯泊: N. 11 タネツケバナにE3→V. 3 終令で死亡

C. 従来屋久島に産することは知られていたが、正確な産地を示したものはまったくなかったので、今回が分布地を示す最初の確実な記録となると思う。トカラ列島以南には分布しないらし

いので、屋久島が分布の南限となる。しかも、個体数が少なくないのは興味深い。

15. ツマベニチヨウ

B. 安房～小杉谷：N. 7 ギ♂ボク葉表を中令幼虫死体1. H

C. 目的でもなかったせいも、かんたんにつかると思っていたが、食草ギ♂ボクさ容易につからず生体はなにも得られなかった。4月15日から成虫がみられはじめたことと、4月7日に中令幼虫死体（原因不明）をみつただけに終わった。安房のギ♂ボクはほとんど切株からのびた小木だったうえに、直接雨や日にさらされる木が多かった。樹陰のものは若い緑葉もつけていたが、ほかは古い葉で落葉初期だと思えた。安房以外では栗生で小木2～3本調べ、尾之間～安房のバスより時々みただけだった。

16. モンシロチヨウ

安房～小杉谷（1♂：N. 7, A）（2♂：N. 14, H）（1♂♀：N. 14, A）

栗生～中間（1♂：N. 11, A）（1♂：N. 11, A）

B. 栗生：N. 8 イヌガラシにE仕→V. 13 1♂羽化, H

C. 個体数は多くはなく、鹿児島市付近ほどいないように思えた。

4月13日 安房で1♀がグミの一種の葉カゲでぶらさがるようにしてひるね(?)をしているのをみた。（16時30分、曇）。

17. スジグロシロチヨウ

A. 安房S（1♀：N. 15, H）（1♀：N. 6, A）（1♀：N. 16, A）（1♂♀：N. 14, A）安房～小杉谷（1♀：N. 7, S）（1♂：N. 7, H）（1♀：N. 14, A）（1♀：N. 15, H）（1♀：N. 16, A）（1♂：N. 14, S）
平内（2♂：N. 12, S）

C. 平地でもモンシロチヨウとほとんど同じぐらいの割合でみられた。従来の記録はきわめてすくなく、モンシロチヨウとの関係を見るのに興味深い島だと思ったが、具体的資料は得ていない。ただ、分布と発生の予備的知見をいくらか加えたにすぎない。奄美大島の古い記録を除くと屋久島は分布の南限となる。

シジミチヨウ科

18. ムラサキツバメ

A. 安房（1♂. 2：N. 14, A）

中間～湯泊（1♂. 2：N. 11, H）平内～小島（1♀. 3：N. 12, A）

B. 安房：N. 14 マテバシイにE+, Eカラナ, H

C. 個体数は少なく、わずかに2♂1♀を得ただけだった。安房で4月14日すでに卵と卵のクラがあったことより、すでに越冬成虫の盛期をすぎたと見てよいだろうか。

トラカ。奄美以南の琉球列島ではまれに記録を見るだけだが、屋久島での記録は比較的多い。しかし、その生活に関する知見は乏しい。

19. ムラサキシジミ

- A. 中間～湯泊 (2♀:N. 11, H) 平内 (1♂:N. 12, S)
栗生～大川 (1♂:N. 10, A)
- B. 安房～小杉谷:N. 7, ウラジロガシの休眠芽の基部に新しいE2
黒味川流域:N. 9 ウラジロガシの芽基部, 古葉裏, 小枝にE+
安房:N. 15 ウラジロガシの古葉裏にE+, Eカラ+
- C. 数が少なく, ムラサキツバメ同様に越冬成虫の生存も末期のように思われた。屋久島における食草(ウラジロガシ)の記録ははじめてのことだが, アラカンには気づかなかった。

20. ウラナミシジミ

- A. 平内 (1頭:N. 12, S) 平内～小島 (1♂:N. 12, A)
- C. 海岸付近や栽培マメ科の近くを歩いていないせいか, 上の2例しかみていない。エンドウには気づかなかったが, 栽培しているだろうか? はたしてどこで越冬するのだろうか。
栗生や中間, 安房の海岸ではハマエンドウを入念にさがしたが卵, 幼虫なども得られなかった。夏～秋にはやはり個体数はふえるものだろうか。

21. ヤマトシジミ

- A. 安房 (2♂:N. 13, A) (1♀:N. 16, S) (2♂:N. 16, H) (4♂:N. 16, A) 安房～小杉谷 (2♂:N. 14, H) (5♂:N. 15, H) (2♂1♀:N. 15, A)
黒味川流域 (2♂:N. 9, A) (3♂:N. 9, H) (1♂:N. 9, 河野)
栗生～大川 (6♂1♀:N. 10, H) (2♂:N. 10, S) (5♂2♀:N. 10, A)
栗生 (2♂:N. 11, H) 栗生～中間 (3♂1♀:N. 11, H) (4♂2♀:N. 11, S) (2♂:N. 11, A) 中間 (1♂:N. 11, S) 中間～湯泊 (1♂:N. 11, S) (8♂1♀:N. 11, H) (1♀:N. 11, A) 湯泊 (1♂:N. 12, S) (1♂:N. 12, H) (2♂:N. 12, A) 湯泊～平内 (1♀:N. 12, H) 平内 (1♀:N. 12, H) 平内～小島 (1♀:N. 12, S)
- B. 安房:N. 14 カタバミにE5, Eカラ3:S N. 16 カタバミにE3
平内～小島:N. 12 カタバミにE++→V. 30 (1♂♀) V. 31 (1♂♀) V. 1 (1♂) 羽化一♀はすべて黒型—
栗生:N. 11 カタバミにE1
栗生～大川:N. 10 カタバミにE1
黒味川流域:N. 9 カタバミにE1, L1 (1令)
- C. 一般に蝶の姿が少なかったので, ヤマトシジミだけでも多くの個体を得ようとつとめたが, そんなに多いものでもなかった。ちょうど第1化の産卵の初期と思われた。
地理的変異を調べるつもりだが, 今は手がまわらないので後日まとめたいと考えている。

22. ルリシジミ

A. 安房 (1♂:N.6, H) (1♀:N.6, A) (1♀:N.13, S) (3♀:N.14, H) (3♀:N.16, S) (1♂♀:N.16, H)

安房~小杉谷 (1♂:N.15, H) (1♂♀:N.14, A) (1♀:N.15, A)

黒味川流域 (1♂:N.9, H) (2♂:N.9, A)

栗生~大川 (1♂:N.10, H) (1♂:N.10, S) 栗生~中間 (1♂:N.11, A) 中間~湯泊 (3♂1♀:N.11, S) (1♀:N.11, A) 湯泊~平内 (1♂:N.12, A) 平内 (4♂5♀:N.12, H) (1♀:N.12, S) (2♂:N.12, A) 平内~小島 (1♂♀:N.12, H) 小島 (1♀:N.12, A)

C. ルリシジミは従来の記録は乏しく、またトカラ列島にひとつの記録があるので、屋久島の分布や個体数は興味があった。分布も広く数も多いことがわかったが、産卵植物など確認できなかった。安房付近ではシイの一種の花のまわりを多数の♂♀がとびまわっていたので、鹿児島市と同様食草となる可能性がある。

なお、ヤクシマルリシジミは1頭も混じていなかった。バラヤイスノキもてあたりしだいにさがしたが何も得られなかった。

23. サツマシジミ

A. 安房~小杉谷 (1♂:N.15, H) (10♂1♀:N.15, A)

栗生 (1♀:N.11, H) 中間~湯泊 (3♂1♀:N.11, S) (1♂♀:N.11, H) (1♀:N.11, A) 湯泊 (1♀:N.12, H) 湯泊~平内 (1♀:N.12, H) 平内 (1♀:N.12, S) (1♀:N.12, A)

C. 安房~小杉谷ではシイのまわりでルリシジミとともにとんでいたが、ほかは散発的なもので食草の手がかりはなかった。

24. ツバメシジミ

A. 栗生~大川 (2♂1♀:N.10, H) (2♂1♀:N.10, S) (1♀:N.10, A)
栗生~中間 (1♀:N.11, A)

B. 栗生~大川: N.10 カラスノエンドウにⅢ14→V.12よりコメツブウマゴヤシで飼育→V.13P→V.23 1♀羽化, V.17P→V.25 1♀羽化, H

C. 屋久島では今までわずかに安房、栗生~尾之間の2カ所しか記録がなく、今回も多くはなかった。トカラ以南の琉球列島には分布しない。

産卵位置: カラスノエンドウに卵

(1) 新芽ののびた葉裏 3例 (2) 茎から葉の出ているわかれめ 5例カラ1

(3) 新芽 1例 (4), (5)と同じところに2個ずつ 2例

※ (1)~(5)は1個ずつ, 合計14個

ウラギンシジミ科

25. ウラギンシジミ

- A. 栗生～大川 (2♀:N.10, H) (1♀:N.10, A) (1♀:N.10, S)
(1♀:N.10, 河野)
- B. 栗生～大川:N.10 ナツフジ(初鳥住彦先生同定)より♂1, ♀カラ4, ♀1(若令)
安房S:N.16 ナツフジより♂1, ♀カラ4 ※飼育は失敗
- C. 越冬成虫の産卵期らしく、ナツフジのまわりをとぶ♀がみられ、卵もみつかった。4月10日、栗生～大川。

テングチヨウ科

26. テングチヨウ

- A. 安房S (1♀:N.15, H)
中間 (1頭:N.11, A) 中間～湯泊 (1♂:N.11, S) (1頭:N.11, H)
湯泊 (1♂:N.12, S) 平内 (1頭:N.12, 河野) (1頭:N.12, A)
- B. 中間～湯泊:N.11 クワノハエノキの若葉より若令幼虫5頭, H & A & S
→N.23 P→原因不明で死:N.25 P→V.7 1頭羽化逃亡, H
湯泊:N.12 クワノハエノキの若葉より若令幼虫2頭, A
→V.10 1頭羽化
- C. 1954年に中間で1♂♀が採取されて以来、まったく記録がないのであまり期待していなかったが、同じ中間で再発見してから広く分布することがわかった。さらに中間から湯泊に行く途中の小さい沢でスミナガシの卵をさがしている時、地上5m位の木の葉に止る成虫をみつけてその付近の枝を苦心しておろしてみると幼虫がみつかった。エノキに以ているがエノキではなかった。(エノキも屋久島に分布するといわれるが我々は見出し得なかった。) 島内での分布状態とか地理的変異など興味深い課題だと思ふ。

タテハチヨウ科

27. ツマグロヒヨウモン

- A. 安房S (2♂:N.16, S) 安房～小杉谷 (1♂:N.14, S) (1♂:N.14, A)
栗生～大川 (1♂:N.10, H) (1♀:N.10, S) (2♀:N.10, A)
栗生～中間 (1♂:N.11, S) (1♂:N.11, A) 中間～湯泊 (1♂:N.11, S) (1♂:N.11, A)

28. コミスジ

- A. 安房S (1頭:N.13, S)
栗生～大川 (3♂1♀:N.10, S) (4♂1♀:N.10, H)
- C. 従来 of 記録は湯泊、尾之間～栗生、栗生の3カ所で、最近確認されたものはない。今度もわずかに上記のみに終わったが、北半の分布状況とともに、再確認されることが望まれる。

29. ルリタテハ

A. 栗生～大川 (1♂:N.10, S) (1♀:N.10, 河野)

B. 栗生～大川:N.10 ♀→N.23死, N.24に腹をさいてみると8条の卵が4個, 9条の卵が7個認め得た, H

大川流域(海岸):N.10 ハマサルトリイバラ(初島住彦先生同定)でE32, L7(若令)をみつけた H&A&S 条一数 (カラ) (ふ化しない) 計

L→N.26 P→V.10 (1♂)	9	2	0	2
N.28 P→V.11 (2♂)	10	6	6	12
N.29 P不完全→死	11	0	1	1
V.5→V.16 (1♂)	-	8	7	15

E→V.6→V.17 (1♀)

※帰鹿後残っていた卵について

V.7→死

V.9→V.19(1頭), V.20 (1♂)

V.12→V.23 (1♀)

蛹期:14, 13, 13, 11, 11, 10, 11, 11 (平均11.75日)

C. 採取できた個体数が少なく地理的変異は調べることができなかった。後日調べるつもり。

30. ヒメアカタテハ

C. 4月11日 15時30分 城下分校付近(黒崎～湯泊)の畑でアゲハ1頭をすどく追飛して、同じ地面に帰り、ハネをV字型にして止る。今回の旅行中では、これ以外にヒメアカタテハをみていないし、従来の記録もきわめて少ない。

31. アカタテハ

A. 安房(1♂:N.15, A) (1♂:N.16, A)

安房～小杉谷(1♀:N.7, A)

中間～湯泊(1頭:N.11, S)

B. 安房 N:N.6 カラムシにE+

♂:N.14 カラムシにE+, L+(若令)→V.20 P→V.27 (1♂)

C. 屋久島での越冬状況はどうか知らないが、今度の印象では少数ずつ成虫がみられ、卵～若令とステージはそろっていた。今までの記録は意外に少ないもので、こゝでは人間の生活との結びつきが少ないのだろうか。

32. イシガケチヨウ

A. 安房～小杉谷(1♀:N.7, A) (1♀:N.14, H) (1♀:N.14, A) (1♀:N.14, S) (1♀:N.15, S) (2♀:N.15, H) (1♀:N.15, A)

栗生～大川(1♀:N.10, 河野) 栗生～中間(1♀:N.11, S) (1♀:N.

11, A) 中間～湯泊(2♀:N.11, S) (1♀:N.11, A) 湯泊(1♀:N.12, S) 湯泊(2♀:N.12, A)

B. 安房：N. 14 イヌビワより若令幼虫 4

安房～小杉谷：N. 14. イヌビワより卵3. 若令7→N. 26～27 P7→V. 7 1♂, V. 8 2♂1♀, V. 9 1♂ほか羽化：V. 1 P2→V. 11 1♂♀羽化N. 15
 イヌビワより若令2→N. 22 P→V. 4 1♀：N. 23 P1→V. 5 1♂羽化
 N. 15の1♀ 久木野和暁君（ラサール高2年）が採卵 9卵をもらい【10条1個, 11条3個, 12条5個】→V. 1ふ化→V. 11より終令となる→V. 15～16
 P5→V. 22 1♂, 23 1♂♀, 24 2♀ 羽化

黒味川流域：N. 9 イヌビワに1令1, A

大川流域：N. 10 イヌビワに若令（井）卵（+），採取したもの—

N. 21	P2→V. 4	1♂, V. 5	1♂失敗	1令 卵
N. 23	P3→V. 6	2♂1♀		15 2 A
N. 24	P31→	V. 7	1♂♀, 1♀失敗	12 4 H
N. 25	P 3→	V. 8	1♀	6 1 S
N. 27	P1	計5♂4♀, 3頭死. 以上H		12 7 SA
				5 0 S
				1 0 A

ほか、V. 4 3♂と1頭、V. 5 1♂と2頭逃亡、V. 6 計51, 14

1頭逃亡、A 合計9♂4♀と4頭、3頭以上死亡

栗生：N. 10, イヌビワに若令5頭, A

中間～湯泊：N. 11 イヌビワに若令2頭→N. 26 P2→V. 8 1♀→V. 15死
 : V. 9 1♀ 羽化, A

- C. 分布は広く溪流ぞいには成虫がとくに多く卵、幼虫もよくみつかった。越冬成虫の活動期の盛りをすぎようとする時だと思われた。成虫♂はまったく得られなかった。地理的変異についてはまだ調べていないが、興味深い問題だと思う。

33. スミナガシ

A. 安房N (1♂, 0 : N. 6, A)

安房～小杉谷 (1♂ : N. 15, H) (3♂ : N. 15, S)

中間～湯泊 (1♂ : N. 11, H)

B. 安房～小杉谷：N. 14 ヤマビワ葉裏にE11→飼育には失敗, S

中間～湯泊：N. 11 ヤマビワ葉裏にE10→飼育には失敗, A

- C. ヤマビワは多く広く分布していて、スミナガシも大体一致して、とくに安房～小杉谷のコースでは多くみられた。すでに10日には卵がみつかったので、産卵期はかなり早いといえる。鹿児島市では5月にならぬと卵はみつからない。アオバセセリとの関係がどうなっているかわからないが、スミナガシの方が早く産卵をはじめものだろうか？

N. 7 安房～小杉谷のヤマビワ葉裏を見ていくうち、葉裏葉柄近くの中脈についている蛹のカラ尾部をみつけた。これは越冬蛹ではないだろう。

Ⅳ・11 中間～湯泊の黒崎付近の小溪谷でスミナガシの成虫をすこし眺めることができた。11時30分 イヌビワの葉裏に羽を水平にひろげてピツタリくっつくようにして止る1頭を観察した。12時30分 小川の流れる樹林内のヤマビワ(地上3m位)の葉裏に飛んできた1頭が羽をV字型にして止る。産卵らしいと思ってじっと見ていたが、まもなく飛び去った。産卵かどうか確認できなかった。H。

Ⅳ・15 安房～小杉谷(快晴)16時～17時 安房川に沿う高さ7～10mのシイ類を主とする樹林の畑に面した日の当たる側(西)で観察した, S。→ 多くの個体は高さ4m位(1本さおでギリギリ)のよく張りだした枝の先たん葉表で, 下向きに先たん向きに羽を開いたままピツタリ葉に密着するようにして静止していた。枝に軽くふれたり近づけたりすると静止していたのと大体同じ高さをぐるっと回って, すぐまたもとの位置に静止した。飛行はいいは個体に与えるしげきの強さに比例するように思われた。途中他の枝に静止する個体も見られたが, その場合, またもとの位置にもどってくるものと かなり長時間そのまま静止するものがあるようだった。これらは自分の領土(領空?)内に2～3か所またはそれ以上(?)こういう居心地のよい(?)場所をもっているらしい, それでもほとんどの個体は1か所にもどってきた。軽くふれると4～5回はもとの所に同様にもどってきた。それ以上は試みなかったが, 強くたたくとかなり速くまで飛んでいくが, しばらく(1分以内?)すると再び帰ってきた。一度ネットに入れて逃げられた後でももとの位置にすぐもどってくるものもあった, 見失なっても5～6分してもとの場所に行ってみると, 同じ個体かどうかはわからないが, 静止しているのをみられた。

飛行後, 静止するときは, すぐ静止の状態(下向き, 開翅, 葉上密着)をとるものと, しばらくの間は下向きではあるが羽はとじたまま後静止状態に移るものの両方見られた。

ある個体の領空(?)に他の個体が侵入してきた場合は普通の飛行(しげきを与えた場合の)と比較して相当の高さまで猛烈な速さで追跡したが, ある所まで追うと180度方向転換を行なってもとの場所へ静止した。

ある場所の個体を捕え5～6分して行って見るとほとんど同じ場所で別の個体を見ることもあった。個体個々に個性がなく, 居心地のいい場所は一致するように思えた。以上S。

また, 同じところで地上5～6mのシイの上空で3つどもえ, 4つどもえ, ときにはミヤマカサアゲハやアオスジアゲハをまじえる追飛が盛んだった。

3.4. タテハモドキ(すべて越冬成虫の秋型)

A. 安房N(1♀:N.14, H) 安房～小杉谷(1♂:N.15, H)

黒味川流域(1♀:N.9, S) 栗生～大川(1頭:N.10, 河野)(1♂2♀:N.10, A) 栗生～中間(1♂:N.11, H)(1♀:N.11, A) 中間(2♀:N.11, S) 中間～湯泊(1♂:N.11, S)(1♀:N.11, H)(1♂♀:N.11, A) 湯泊(1♀:N.12, A)

B. 安房:N.14 1♀→ V.1死亡:イワダレソウとともに飼育カゴに入れる →

V. 11 孵化幼虫~2令初期の幼虫を認める→ V. 30より終令にたりはじめる。

V. 4 P2 → V. 14 1♂不完全, 1頭失敗; V. 8 P2 → V. 18 1♀ → V. 27死(1頭は死亡); V. 9 P2 → V. 19 2頭羽化, H。

- C 屋久島では南半の海岸地帯の記録があるだけで、越冬個体の記録はあまり報告されていないと思うのでこの点で重要な資料となるだろう。屋久島の全面積からして水田はとても少ないと思う。スズメノトウガラシや別に未知の食草があるかの問題もあるが、奄美や九州本土とは生活条件が異ると考えられるので、夏~秋の生活など興味深い。イワダレソウやスズメノトウガラシはみつからず、産卵行動もみられなかった。

35. ヒメウラナミジヤノメ

A. 安房(1頭: N. 13, A)(1頭: N. 15, A)

安房~小杉谷(1頭: N. 14, S)(2頭: N. 15, S)(1頭: N. 15, H)

栗生~大川(1頭: N. 10, A)(2頭: N. 10, S)(2頭: N. 10, H)

中間~湯泊(1頭: N. 11, H) 平内(1頭: N. 12, A) 平内~小島(1頭: N. 12, H)(1頭: N. 12, A) 小島(1頭: N. 12, A)

- C. 10日からとれはじめ、この頃がちょうどオー化の発生初期と思われた。いずれも平地の路上で、個体数は少なく新鮮だった。

36. クロコノマチヨウ (いずれも越冬個体の秋型)

A. 安房~小杉谷(1♂: N. 14, H)(1♀: N. 15, H)

大川流域(1♂: N. 10, 河野)(1♂: N. 10, H)

- C. 主目的のひとつであったウスイロコノマチヨウの越冬個体はとうとう発見できず、とれるのはすべて越冬後のクロコノマチヨウ秋型だった。大川流域の2頭は海岸近くの樹林内の落葉上からとびだしてすぐに地表近くに止ったもの、安房~小杉谷の2頭はいずれも林内からとび出して陽当りのよい路上を活発にとんでいたもので、冬から春先への活動状況の変化を示しているようだ。まだ本格的活動期に入っていないと思えた。ほかにも落葉のある樹林を歩いてみたが、*Melanitis* はほかにいなかった。

○ 蝶の訪花・吸蜜記録

1) アオバセセリ

安房~小杉谷(N. 13, 11時30分)◎: 2頭 ツツジ(白)吸蜜, H

◇ (N. 13, 11時50分)◎: 1頭 ツツジ(白) ◇, H

◇ (N. 13, 12時30分)◎: 1頭 ネギ(白) ◇, H

◇ (N. 15, 17時20分)○: 1頭 リユウキユウバライチゴ(白)吸蜜, S

◇ (N. 15, 15時~10分)○: + ネギ(白)吸蜜, H, S

2) アオスジアゲハ

栗生~大川(N. 10, 12時20分)○: 1頭 アキグミ(黄白)訪花, H.

3) キアゲハ

中間～湯泊 (V. 11, 12時) ①: 1♀ (2) アザミの一種 (桃) 吸蜜, H

4) クロアゲハ

黒味川流域 (V. 9, 9時10分) ○: 1♀ (0) アザミの一種 (桃) 訪花, H

安房～小杉谷 (V. 13, 13時) ◎: 1♂ ダイコン (白) 吸蜜, H

◇ (V. 15, 15時) ○: 1♀ (0) ツツジ (桃) 吸蜜, H

5) モンキアゲハ

中間～湯泊 (V. 11, 14時50分) ◎: 1♀ アザミ (桃) 吸蜜, H

6) ミヤマカラスアゲハ

安房～小杉谷 (V. 7, 10時) ○: 1♂ (2) リュウキュウイチゴ (白) 吸蜜, A

栗生 (V. 11, 9時30分) ○: 1♂ (0) ツツジ (桃) 吸蜜, S

7) スジグロンロチョウ

安房～小杉谷 (V. 15, 15時～15時10分) ○: 1頭 ネギ (白) 吸蜜, H, S

8) ルリシジミ

平内 (V. 12, 12時30分) ①: + シマイズセンリョウ (白) 訪花と吸蜜, H

9) ツマグロヒョウモン

安房～小杉谷 (V. 15, 14時45分) ○: 1♀ (0) コバノタツナミ (紫) 吸蜜, H

◇ (V. 15, 15時～15時10分) ○: 1♂ 小型 ネギ (白) 吸蜜, H

10) スミナガシ

安房～小杉谷 (V. 13, 11時30分) ◎: 2頭 タブの樹液を吸汁, A

11) タテハモドキ

安房～小杉谷 (V. 15, 15時～15時10分) ○: 1♂ ネギ (白) 吸蜜, H

III とれなかつた蝶の記録

1) シルビアシジミ………ミヤコグサもみつからなかった。ヤハズソウなどの豆科も気づかなかった。飛行場あたりを調べてみると面白そうだが、屋久島の分布は再確認を要する。

2) ウスイロノマチョウ………従来夏～秋の記録は多いのに春～初夏の記録がないのは屋久島に土着していないためだろうか。屋久島に土着していないとすればトカラ列島や種子島でも春～初夏の記録はないので、やはり奄美が土着北限となるのだろう。それ以北から北海道までの記録はどこか南方からの移住と考えざるを得ない。その意味でも奄美以南での生活は興味がある。

④ 高橋・石田 (1962) のトカラ列島の蝶の記録にもない。

3) カバマダラ………最近夏季の記録が続いているので、今回は全コースで気をつけていたが、トウワタが少ししかなかった。地上部は枯死していなく、新葉をつけているていどだった。古い食痕もみつからなかったし卵、幼虫、成虫など何も発見できなかったのはやはり冬季は絶えて、夏?に移住してくるものらしい。もちろん冬の気候にもよるだろう。

Table 1

コ - ス	安房	安房 小杉谷	栗生	黒味川 流域	栗生 大川	大川 流域	栗生	栗生 中間	中間	中間 湯泊
1963年4月 日	6	7	8	9	10	10	11	11	11	11
天 候	◎	①◎	●◎	①	○	○	①	①◎	①◎	◎
1 アオバセセリ						1ex				EP
2 キマダラセセリ				L						
3 クロセセリ						1ex				
4 ジャコウアゲハ							1ex			
5 アオスジアゲハ					+		+	+		+
6 ミカドアゲハ										
7 キアゲハ							+	+		+
8 アゲハチョウ					+	+	+	+		+
9 クロアゲハ				1♀						+
10 モンキアゲハ										+
11 ミヤマカラスアゲハ		2exS					1♂			1ex♀
12 キチョウ	+	+			+		+	+		+
13 ツマグロキチョウ	+				+					
14 ツマキチョウ				1♂	+		+			+
15 ツマベニチョウ		L死体								
16 モンシロチョウ		1♂	+	+	+		+			+
17 スジグロシロチョウ		+	+				+			+
18 ムラサキツバメ										1♂
19 ムラサキシジミ		II		II	1♂					2♀
20 ウラナミシジミ										
21 ヤマトシジミ	1ex			+	+		+	+	1♂	+
22 ルリシジミ	+	+		+	+		+			+
23 サツマシジミ		1♂					1♀			+
24 ツバメシジミ					+					+
25 ウラギンシジミ		1♀			+					
26 テングチョウ										+
27 ツマグロヒョウモン				1♀	+		+	1♂		+
28 コミスジ					+					
29 ルリタテハ				1ex?	+	1ex				+
30 ヒメアカタテハ										1ex

湯泊	~	平内	~	小島	~	尾之 間	安房 S	安房 ~ 小谷 14	安房 N 14	安房 S 15	安房 ~ 小谷 15	安房 S 16	安房 N 16
12 ◎◎	12 ◎◎	12 ◎	12 ◎	12 ◎	12 ◎	12 ◎	13 ◎	14 ◎◎	14 ◎◎	15 ◎◎	15 ◎◎	16 ○	16 ◎
			+	1♂				廿	+		廿		
1♀		+					+	+	+	+	廿 +	+	
	+	+			+		+	廿	+	+	廿	+	
	1ex	+						+	+	+	+		
		1ex						1♂		2exS 1♂			
								23回	2回				
								+	+	+	+	+	
+	廿	1♀						+	+	+	+	+	1♂
+		+						廿	+	+	+		
		+						+	+	+	+		
			1♀						1♂				
		1♀								㊦			
+	+	+	1♂		+		+	+	+	+	+	+	+
+	+	+	1♀		+		+	+	+	+	+	+	+
1♀	1♀	+	1♂1♀		1ex		1♀	+	+	+	+	1♀	+
												㊦	
1♂		+								1♀			
	+	+	+		+			+			+	+	
		1ex								1ex	+		
											1ex		1ex

Table 2

コ - ス	安房	安房 小谷	栗生	黒川 流域	栗生 大川	大川 流域	栗生	栗生 中間	中間	中間 湯泊
1963年4月 日	6	7	8	9	10	10	11	11	11	11
天 候	☉	①☉	●☉	①	○	○	①	①☉	①☉	☉
3 1 アカタテハ	3exs	+								1ex
3 2 イシガケチョウ	1ex	+		L	+	+		1♀		+
3 3 スミナガシ	1♂	1ex				1ex				+
3 4 タテハモドキ				1♀	+	+		+	2♀	+
3 5 ヒメウラナミジャノメ					+					
3 6 クロコノマチョウ					2♂					

要 約

- 1963年4月6日-16日の約10日間、筆者らが屋久島南部平地で採集、観察した蝶8科36種の記録を報告した。
- 全種類の分布調査と発生状況の資料を中心にして、生態的事項など推定も加えて記した。
- 今回の調査で、琉球列島（台湾を除く）において屋久島が南限となつている種のうち、ツマキチョウ、スジグロシロチョウ・ミカドアゲハ（橙色紋型）・ミヤマカラスアゲハ・サツマジジミ・ツバメシジミ・コミスジ・ヒメウラナミジャノメ・クロコノマチョウ・キマダラセセリ・キアゲハ・ルリシジミの12種について分布の再確認や個体数の多少・分布状況を知ることができた。（後3者はトカラ列島から各1回記録がある。）
- とくにツマキチョウは従来1回詳細不明の記録があるだけで、今回はじめて屋久島産の確実な記録を示した。
- 中間産の1♂♀しか知られていなかったテングチョウがあちこちで発見され、クワノハエノキから幼虫を発見し羽化に成功した。
- 屋久島～九州南部が分布北限となっている種のうちツマベニチョウとタテハモドキしか確認できず、目的としたカバマダラ・アマミウラナミシジミ・ウスイロコノマチョウ・アオタテハモドキなどの問題の蝶は発見できなかった。その他の迷蝶やヤクシマルリシジミも発見できなかった。
- 今までの分布記録で疑問視され再確認の必要があつたいくつかの蝶。たとえばシルビアシジミやベニシジミ、についても今回はまったく手がかりは得られなかった。
- 屋久島だけでなく近くの種子島やトカラ列島の蝶の資料もきわめて乏しい。鹿児島島の蝶の分布を論ずるにもさらに多くの資料の集積が必要だと思われる。

湯泊	～	平内	～	小島	～	尾之 間	安房 S	安房 ～ 小杉谷	安房 N	安房 S	安房 ～ 小杉谷	安房 S	安房 N
1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2	1 3	1 4	1 4	1 5	1 5	1 6	1 6
◎①	◎①	◎	◎	◎	◎	◎	◎	①◎	◎●	●◎	◎①	○	①
	1 ♀ +							+	EL L	L	+	+	
			+					+	1 ♀		+	1ex	
								1ex 1 ♂			+		
											1 ♀		

参 考 文 献

1. 福田晴夫・田中洋(1962) 鹿児島県の蝶類: 1-355: 鹿児島昆虫同好会発行
2. 橋元紘爾・肥後昌幸(1962) 屋久島の蝶類採集記, LEBEN(4): 19-24
3. 成見和総(1962) 屋久島採集紀行(1961年), LEBEN(4): 25-50
4. 宇野正紘(1962) 日本縦断採集記 南方の巻, INSECT MAGAZINE(55)-
5. 吉木 央(1963) 屋久島採集記, KORASAN 3(2): 2-9 38-48
6. 久富敏弘(1963) 屋久島で *Catopsilia* を採集す, KORASANA 3(2): 9&12

○福田晴夫・編(1961) 鹿児島県産蝶類文献目録: 1-305: 鹿児島昆虫同好会発行

○高橋昭・石田昇三(1963) トカラ列島の蝶, 蝶と蛾 14(1): 1-11

○藤岡知夫(1962) 奄美群島産蝶類概説, INSECT MAGAZINE(55): 2-5

○中島輝躬(1962) 薩南諸島における蝶類の分布について, INSECT MAGAZINE -
(55) 6-10

(田中洋: 医学部専門3年, 田中 章: 農学部農学科2年, 南野佃: 農学部農芸化学科2年)

編集後記

初島先生を初め快よく原稿をお寄せ下さった方々、並びに
編集に際して助言を載せた 田中 洋 氏に謝意を表します。

本号は内容的に生研の要人諸氏の場になったようですが、
来号は新人登場、古参躍進の場と進展する事を期待致します。

南国ムード溢るる編集室故皆様方の原稿を温存致しました
事をお詫び申し上げます。 編集子

LEBEN オ6号

鹿児島大学生物研究会会誌

発行日： 1964年3月31日

編集者： 池田豪憲，白石義，南野稔

印刷： アルプス印刷有限会社

TEL ② 7385

鹿児島市上荒田町鹿児島大学学友会内
